

「寒河江市学校施設整備計画改定（案）」へのパブリックコメントの結果について

「寒河江市学校施設整備計画改定（案）」について、令和5年9月28日から令和5年10月27日まで、パブリックコメントを実施しましたが、その結果は次のとおりです。

1 意見募集期間

令和5年9月28日から令和5年10月27日まで

2 意見の件数

意見提出者数 29 件

年齢及び性別区分

年齢区分	性別		合計
	男	女	
30代	2	2	4
40代	3	2	5
60代	4	3	7
70代	11	1	12
80代		1	1
合計	20	9	29

No.	意見の内容	市の考え方
1	<p>中学校1校に統合することに対する不安が大きすぎる。</p> <p>理由：現在陵南中が寒河江市内で一番人数が多い学校になっているが、非行や問題行動を行う生徒も見受けられる。仮に1校体制になった場合、教員・地域の目がより届かなくなることが考えられる。教育のハード面ソフト面を拡充し、現状でもある課題を解決する術がないのであれば、2校案も残すべきではないか。</p> <p>用地選定について 仮に1校案で進める場合用地選定、買収とある。寒河江市市有地や公共用地で選定する考えはないか。個人の私有地を買収する場合、必ず利害関係が発生する。学校を減らす議論なので、用地や敷地を新たに取得して用地を増やす必要があるのか。</p> <p>部活動について 地域移行を行うというが、地域で受け入れる部活動の選択肢を現状で良いので示して欲しい。本当に地域移行できるのか、子供にと</p>	<p>学校施設整備計画策定時のパブリックコメントや説明会でのご意見を踏まえ、計画の見直しに向けた準備を進めてまいりました。また、計画の見直しにあたり、教育、まちづくり、環境など様々な分野の専門家で構成される「寒河江市学校再編に関する外部有識者会議」を立ち上げ、まちづくりなどの視点も含めて検討してきたところです。これまでいただいたご意見などを整理し、中学校を1校とすることについて、切磋琢磨できる環境と社会性の育成、市内の生徒に充実した教育環境の中で多様な選択肢及び地域を考える視点の拡大、教員数の増加とバランスのとれた教職員の配置、10年後、20年後をも想定した生徒数の不均衡の解消などを理由として、1校案とすることが本市の未来を担う子どもたちにとって最善の選択であると考えておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>用地選定については、計画改定後に行う予定です。頂戴しましたご意見については、今後の用地選定の参考とさせていただきます。</p>

	<p>ういった部活動ができる選択肢があるのか教えてほしい。</p>	<p>部活動改革については、令和5年度中に寒河江市における部活動改革のガイドラインを作成するため、寒河江市中学校部活動改革検討委員会で議論しております。部活動の現状等を整理した資料は、配布資料として市ホームページで公開しておりますので、そちらをご参照ください。</p>
2	<p>1.総務省で公開している「公共施設等総合管理計画の見直しに関すること」を確認すると、日本国全域で公共施設マネジメントの必要性を確認することができました。</p> <p>2.その中において、寒河江市教育委員会で作成した「寒河江市学校施設整備計画改定」は理解できるものです。</p> <p>3.将来あるべき姿として、16ページには中学校を1校へ、小学校は6校(寒河江・寒河江中部・寒河江南部・柴橋は今後の児童数の推移により変化)となることについては、今後の人口減を考慮すればやむを得ない政策であると思います。</p> <p>4.ただし、県外(単身赴任)で仕事をしている立場で考えると、寒河江市は山形県の中心にある市として「交通手段の充実」によって変えられる可能性もあるのではないかと考えています。</p> <p>5.車(マイカー)社会の現在では車での移動が時間的にも楽なことではありますが、ガソリン代+高速料金と新幹線+JR料金はほぼ同額であり、移動方法によって新幹線のほうが早く実はアクセス次第では便利な市であることも事実です。</p> <p>6.山形空港、高速道路、左沢線、新幹線、高速バス、市街地のバス、循環バス、デマンドタクシーなど交通手段の充実(アクセスの良さ)となるスキームを及びスマートホンなどでの検索機能でこれらのルートガイドができれば、寒河江市はより魅力のある市となり、寒河江市の人口減少を遅らせることも可能ではないかと思えます。</p> <p>7.その他として、寒河江駅近くには「日東ベスト」という大きな会社がありますが、以前のように貨物列車で製品を配送する時代ではないこと及び経年劣化等も考慮し、市が新たに工業団地(寒河江市内)などをお勧めし、跡地を活用して統合する学校を建設すると</p>	<p>交通政策、人口減少対策、学校建設地について貴重なご意見ありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。</p>

	<p>いうことができれば、寒河江駅・山交バス寒河江にも近い学校となる方法もご検討いただければと思います。</p>	
3	<p>1. 児童・生徒は、大切な未来の創造者であり、牽引者になっていく本市の宝物です。さがえっ子の未来を築き、明日への夢と希望の道筋を作っていく、そのことが私たち大人の使命です。教育に力を入れない国は衰退していくと歴史は教えています。OECD 諸国で最下位グループの教育予算である我が国は、今後どうなっていくのか。本市では、中学校給食の実施や学校給食完全無償化、高校生までの医療費無料化など、佐藤市長が子育て、教育に一生懸命頑張ってくられました。しかし、今回の計画は、小中学校を統廃合し、義務教育に経済合理性・効率化を求めるもので、残念ながら賛成できません。特に、中学校マンモス校 1 校再編は、やりすぎです！しっかりと学区再編を行って、500 人程度の中規模 2 校に見直すべきです。</p> <p>2. パブリックコメント（意見公募）の取り扱いについて、前回大変失望しました。昨年 2 月中旬から 1 か月間、市民 30 人から 50 件の意見が寄せられました。その結果、賛成意見はわずか 2 件で、他 48 件は、①情報周知が極めて不十分である ②学校統合で地域活力がなくなる ③中学校は 2 校にすべきなど、計画の見直しを求める意見がほとんどでした。しかし、貴重な市民の意見を全く反映することなく「事務手続きとして意見公募を行っただけ」「計画案の修正はありません」という冷たい対応で、当初の計画を強行しました。何のための意見公募なのか、はじめから聞く耳などなかったのか、多くの市民の意見をどう考えているのかなど、教育委員会の頑なな姿勢を強く糾弾せざるを得ません。今回も同様のことをなされるようであれば、このコメントの意味が全くありません。外部有識者会議の大桃会長もおっしゃっていますが、「地域の声をよく聞き、より良い計画にしてほしい」と。今回の取り扱いについて、前回のような酷いことはしませんが、市民に約束してください。</p> <p>3. この計画をつくる前提となった「あり方検討委員会の会議録」が、市民団体や議会の指摘により、やっとのことで公開されましたが、これを読む限り、中学校 1 校案を決定づけるものは何もありませんでした。第 8 回の会議で意見が分かれ、多数決での決定は無理</p>	<p>1. 学区再編を行いながら中学校規模を維持することは、子どもたち、保護者の方に負担が大きいものと考えます。また、生徒数も令和 17 年度には約 800 名と見込まれていて、その後も減少していくことが想定されます。令和 4 年 3 月に策定した当初の計画では、小学校を 2 段階で統合する計画でしたが、説明会などで小学校でも中学校でも統合を経験するお子さんがいることに対して負担が大きいなどのご意見を頂戴しましたので、今回の見直しにおいて、西部地区に拠点となる小学校と、陵東中学校跡地に西根小と三泉小を統合する小学校、中学校統合の時期を令和 12 年に見直しを行っておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>2. 現計画策定時の情報提供が不足していた点についてはご指摘のとおりでございます。今回の見直しにあたり、市報への掲載、説明会の開催、外部有識者会議の資料・議事録などの公開に取り組んでまいりました。今後も積極的な情報発信に努めてまいります。</p> <p>パブリックコメントにつきましては、寒河江市パブリックコメント手続要綱に基づき実施し、所要の手続きを経て、市の考え方をお示ししております。</p> <p>3. 中学校については、あり方検討委員会の答申の 5 ページに「中学校の適正規模・適正配置については、熟議を経ても一つに結論を集約することができなかつたため、1 校案と 2 校案の両論を併記することとしましたが、この件につきましては、他の施設との併設や財政の見通し等、市全体の方向性をも勘案していただいたうえで市当局の判断に委ねることといたしました」とあります。この答申を踏まえ、市庁内での調整を経て、令和 4 年 3 月の教育委員会で議決しております。</p> <p>周辺自治体の中学校数はご指摘のとおりでございますが、中長期的な生徒数の推移などを考え、県内の自治体に先駆けて学校再編に着手しております。</p> <p>今年 7 月に開催した講演会につきましては、「みんなでつくるみんなの学校 ワクワクする学びの場を目指して」をテーマに、保護者の方、地域の方、教職員の方と一緒に新しい学校づくりを学んだ取り組みでございますので、適正な予算執行であったものと考えてお</p>

<p>だったことが記録されてます。委員 17 人中、委員長を除く 16 人の賛否表示ですが、中学校 1 校賛成は、たった 3 人。中学校 2 校賛成は、5 人でした。また、学校配置について、陵西中学校区に皆無は避けることに賛成が、6 人でした。</p> <p>一方、保護者アンケートの集約結果は、陵東中も陵南中も現状維持肯定(統合反対)が、約 60%と多数で、統合賛成は陵東中が 16%、陵南中が 23%と少数にとどまりました。つまり、「何も中学校を 1 つにしなかったっていいのに」と考えている市民が多数です。さらに、1 学年あたりの学級数は、5 ないし 6 クラスが最適との答えが過半数でした。</p> <p>周辺自治体の中学校数に目を向ければ、長井市が 2 校、村山市が 2 校、上山市が 3 校、天童市が 4 校、東根市が 6 校ですので、人口 4 万人で 1 校再編は異常すぎる乱暴な計画です。</p> <p>多くの市民がマンモス校でなく、中規模校 2 校を希望していると思います。教育委員会は、講演会や外部の人間を呼んで、手を変え、品を変え、マンモス校キャンペーンを行い、既成事実を重ねているようですが、善良な市民をごまかさなでください。オンライン参加の外部委員に、出演料をいくら払っているのですか。もっと大切なものにお金をかけてください。本末転倒です。大切な義務教育予算を削減しないでください。</p> <p>4. 当初の計画をつくられた前教育長が任期半ばで昨年 3 月に突然辞任されました。また、その後まもなく、再任されたばかりの教育委員が辞職されました。市教育行政史上極めて異例の事態です。計画だけ作って、あとはさよなら、というのは、無責任すぎると言わざるを得ません。これらは、「前教育長殿の 17 人」といわれる、あり方検討委員会の答申が、中途半端で、市民の意見を十分取り入れたものでないからで、はっきり申し上げれば、大変お粗末なものであるからです。答申からわずか 3 カ月で教育委員会の権限で決定するといった拙速すぎる工程によって、前教育長及び前教育委員は、市民を大混乱させた責任をおとりになったのだと思います。本来は、教育委員すべて総辞職すべきだったのではないのでしょうか。</p> <p>特に、現在の複数の教育委員は、海外旅行の素敵な夜景、酔っ払った醜態、豪華な料理など豪遊を自慢して、ご本人や同行した方などが SNS で拡散されています。最近話題とな</p>	<p>ります。</p> <p>外部有識者会議につきましては、本市の審議会等と同様の金額でお願いしております。</p> <p>4. 教育長、教育委員の任命は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長が議会の同意を得て、任命しております。</p> <p>あり方検討委員会の答申は、学識経験者、地域住民代表、学校代表、児童生徒保護者代表、幼児保護者代表、公募委員の方よりご参加いただき、令和元年 7 月から令和 3 年 1 1 月まで約 2 年の時間をかけて議論いただいた内容が盛り込まれたものであったと考えております。</p> <p>教育委員個人の SNS の使用につきましては、寒河江市学校施設整備計画改定(案)の内容に関連するものではないため回答しかねます。</p> <p>5. 学区再編については、答申の 3 ページ(3)小学校における学区のあり方について、次のように記載されております。「検討委員会では、学校の統合は進めるが、学区の再編については慎重な意見もあることから、小学校においては、当面の間、現行の学区を分けることなく、現行制度である学区の弾力的運用の更なる周知と運用地域を南部小と柴橋小にも拡大することなども検討し、寒河江中部小学校の児童数の増加を抑えることも必要であると考えます。」との答申がございましたので、学区の弾力的運用につきましては、令和 4 年度に寒河江市立小中学校の通学区制度の弾力的運用に関する要綱の改正を行い、寒河江中部小学校が指定校となっている児童が、寒河江小学校、南部小学校、柴橋小学校を選択することが可能となっております。</p> <p>あり方検討委員会の答申を踏まえつつ、パブリックコメントや説明会などで頂戴しましたご意見を取り入れて今回の計画の改定案をお示ししております。</p> <p>中学校の統合について、ご提案のと通りの申請で国庫補助として認めていただけるかどうかは国の判断となります。中学校の規模は統合当初はご指摘の通りとなりますが、学区再編については、兄弟などで違う学校に通うことになったり、同じ小学校に通っていても別々の中学校に進学することになったり、生徒数の不均衡が生じる度に学区の見直しを続けるなど、子どもたちにとって中長期的な不安を強いてしまうなど別な課題が生じてしまうことが想定されます。</p>
---	---

<p>った自民党女性局のフランス・パリ旅行のようで、本当にかっかりしておりますし、教育委員としての資質が疑われます。庶民の私たちは、そんな贅沢できません。こんな人たちに計画を最終決定してほしくありません。</p> <p>5. 今回の中学校統廃合改定案につきまして、文部科学省の「適正規模の手引きの注意すべき事項」と「あり方検討委員会答申」の記載がありません。統廃合再編で、当然踏まえておかなければならない点、なぜ答申で2校案と1校案が両論併記されたのか、2校案を支持するアンケート結果や多数決の結果について、市民に対する説明が全く不十分です。1校案のメリットのみが特筆され、1校案のデメリット、2校案のメリットデメリットが比較対象から故意に矮小化されているのは、なぜでしょうか。</p> <p>また、統合する場合の条件として現在の学区を変更しないという縛りを勝手につくっておきながら、わざわざ2校案だと生徒の数が違ってくるといふ比較は、当然の帰結です。さらに、市の財政負担を持ち出し、1校だと2校より安上がりだからいいことだという理由は、あまりにも「はじめから中学校は1校ありき」という結論のこり押しにほかなりません。</p> <p>すでに、あり方検討委員会答申は、2段階統合をしないことや皆無だった西部地区の小学校で新たに新設が提案されておりますので、そうした当初計画を作る上で束縛となった答申の前提条件は事実上破綻しています。これから寒河江中部小学校の児童数がさらに膨張し、寒河江南部小も柴橋小も統合すれば1,000人規模のマンモス小学校になることは、必至です。したがって、中学校についても答申に関係なく、学区を再編することで、文部科学省の予算確保できるのではないのでしょうか。新たな500人程度の中規模校2校（陵東+陵南+陵西の統合校、陵東+陵南の統合校）を建設すべきです。</p> <p>6. 生徒と保護者の声をもっと優先していただきたい！と、強く申しあげたいです。1学年10クラス以上のマンモス校で、私たちの子や孫に勉強させたいと思いません。息子たち夫婦も、寒河江市でなく他の自治体に家を建てたいと言いはじめております。息子の友達も天童市に家を建てるために転出予定だそうです。</p> <p>社会の宝である子どもたち、未来の礎である義務教育に先行投資すべく、もっと十分な予</p>	<p>6. 保護者向け説明会などを実施し、保護者の方の意見を伺う機会を設けてまいりました。本市に住んでいる方が住み続けたいと思えるような新しい学校づくりを進めてまいります。</p> <p>新しい学校建設には数十億円の予算措置が必要となります。本市は子育てに本気であるため、新しい学校建設に着手する予定です。本市以外の方が移住したくなるような教育環境整備を目指して準備を進めてまいります。</p> <p>学校を新設するにあたり小学校も中学校も相当程度の予算を先行投資する予定です。財源につきましては、他の事業との関連もごさいますので、市民のみならず、未来の寒河江を担う子どもたちの負担が最小限になるように検討してまいります。</p> <p>7. 統合に関する様々なご意見があることは承知しております。</p> <p>体育や学校行事などの実施にあたって、学校規模に応じた屋内運動場を整備する予定です。</p> <p>校則については、生徒と一緒に考えて未来志向のものに改善してまいります。</p> <p>中学校の候補地選定につきましては、計画改定後に着手する予定となっております。</p> <p>8. 自然環境・社会情勢の変化に柔軟に対応することは大切であると考えます。既存の学校施設では、例えば、小中学校は災害時の避難所の拠点となることも考慮する必要があります。</p> <p>学校施設として最大限に子どもたちが安心安全に学べるような学校施設を建設する予定です。</p> <p>計画本文中18ページに記載したとおり、新たな感染症等が発生した場合にも、感染拡大の防止に努め、平常時と同様の学習機会が保障できるよう、柔軟に対応することが可能な施設・設備を整備してまいります。</p> <p>9. 通学方法につきましては、生徒たちの負担が最小限になるように工夫したいと考えております。</p> <p>通学時間が長くないようにルート設定を検討いたします。</p> <p>用地購入にあたっては、子どもたちの教育環境が充実できる面積となるようにいたします。</p> <p>スクールバス等の導入にあたっては環境負荷への配慮についても検討を行います。</p>
---	---

<p>算をかけるべきです。ふるさと納税の予算も小中学校に投入してください！これで「寒河江市は子育てに本気です」なんて言えるのでしょうか。子育てに後ろ向きじゃないですか。佐藤市長に本意をお聞きしたいです。</p> <p>7. 学年 10 クラスのマンモス校 1 校案に反対します。その理由は、統合された大規模校の実態を専門誌やインターネットで調べましたが、どこの学校も校舎と設備だけが自慢され、生徒や保護者、先生や地域住民からうれしい声が聞こえてこないからです。残念な実態として、生徒一人ひとりに行き届いた教育ができない、全校生徒の約 1 割と言われる特別支援が必要な生徒に十分対応できない、特別教室や体育館など施設や備品の利用に制限がかかる、どうしても校則が厳しく生徒指導が威圧的にならざるを得ない、部活動のレギュラー補欠の格差が大きくなる、顧問教員の指導に限界が生じる、生徒間のトラブルが多発する、卒業しても同級生の名前と顔が一致しないなど、問題が多すぎます。こうした先例を見ると、理想と現実のギャップを痛感してしまいます。子どもたちに 1000 人規模の中学校を体験入学させられないわけですから、私たち大人の責任は重大です。どんな中学校になるのか、どこに建てるのかもわからない、激変する中学校生活がイメージできません。この計画案に賛成してくれということは、所詮無理なことです。</p> <p>8. 最近の取り巻く自然環境・社会情勢の変化で、今までの価値観（経済効率化・縮小再編）では、充分対応できないと考えます。新型コロナウイルスの新たな変異株等集団感染リスクが、さらに高まるでしょう。生徒と教職員 300 人超の学年閉鎖、1000 人超の学校閉鎖を回避できるのでしょうか。また、全国的な社会問題となっている不登校やいじめなどの精神的ストレスに対し、生徒一人ひとりに手厚く対応できるのでしょうか。毎日のように、青少年の自殺や事件の暗いニュースが報道されますが、大変な不安と恐怖を禁じえません。生徒のいのちと健康を最優先にしてください。コロナ禍の教訓を踏まえ、危険なマンモス校に反対します。</p> <p>9. 今夏の異常すぎる猛暑の中、米沢市では部活動を終え帰宅中だった中学生が熱中症で亡くなるといういたましいニュースが流れました。気象庁は、今後も異常気象が続くと長期予測を出しています。そのため、徒歩</p>	<p>10. 寒河江まつりはとても素晴らしいものでした。統合後も神輿の祭典をはじめ、地域の行事に参加しやすいように対応してまいります。</p> <p>11. ご提案いただきました組合立学校は現在の法律でも設置可能となっております。全国的にも市町村、県をこえた組合立学校が存在しております。 学校設置はそれぞれの自治体の考えによるものですので、西村山地域の学校設置について本市としてはお答えできませんが、西村山地域の中核となるような学校施設整備を検討してまいります。</p> <p>12. 新しい学校づくりにおいて保護者の方、地域の方など様々な方との協力は必要不可欠であります。学校建設においても様々な民間事業者の力が必要でありますので、法令等を遵守し、ふるさと納税に関する事件に対しては、市民の皆様からの信頼回復できるように取り組んでまいります。</p> <p>13. 昭和 40 年代の学校再編において、寒河江中学校を分離して、陵東中学校は、寒河江中学校と西根中学校と三泉中学校を統合し、陵南中学校は、寒河江中学校と柴橋中学校を統合して設立されました。中学校の生徒数は 1990 年頃の約 1,800 名をピークに、令和 5 年度現在では、1,050 名となっております。市内の 3 中学校がそれぞれ刻んできた歴史を最大限尊重し、新しい時代の学びにあった学校づくりを市民のみなさまと一緒に進めてまいります。</p> <p>14. 用地選定については計画改定後に行う予定です。通学方法につきましても徒歩、自転車、スクールバス、公共交通機関などを含めて十分に検討を行う予定です。 中学校建設に伴い周辺に影響が生じないように接道や来校される方が利用しやすいような駐車場についても十分に検討を行う予定です。</p> <p>15. 県内外の先進的な事例を研究し、子どもたちにとっての最適な教育環境を整備できるように準備を進めてまいります。 先生方の働き方改革についても教育におけるとても重要な課題であると認識しております。今の学校で学ぶ子どもたち・先生方、新しい学校で学ぶ子どもたち・先生方が安心安全</p>
---	--

<p>や自転車で通学でき、市街地の中にある、今の陵東中と陵南中の学校敷地を有効利用して、グラウンド又は隣接地に建て替えるべきです。広大な農地を安易に宅地化する、余計な土地購入費こそ血税の無駄使いです。</p> <p>スクールバスでは、拘束時間が長くなり、しかもバスによる排気ガス放出は、地球環境保全に逆行します。特に、思春期の生徒たちが、「車内では恋バナもできない！！」と憂いております。スクールバスを使うような遠距離通学、長時間の拘束で自由が奪われる通学、無謀すぎるマンモス校に大反対です。</p> <p>10. 2校が存在していることで、切磋琢磨により高めあうことが可能であることを証明してくれたのが、去る9月17日夜の第41回寒河江神輿の祭典、陵東中と陵南中の中学生神輿の競演です。史上初の優れた試みは、非常に素晴らしかったです。初出場陵南中のどっこい神輿、どっこいの威勢の良い掛け声と意気込み、多くの観衆に元気と勇気を与えてくれました。一方の陵東中江戸前神輿は、校歌や応援歌など独自のアレンジと独創性、生徒の皆さんの限りない可能性と若さの爆発的なパワーを見せてくれました。観衆に2校の競演がこれほど心を揺さぶられるのはなぜだろうか、と考えました。それは、マンモス校では成しえない2校だからこそ成し得ること、お互いをリスペクトし切磋琢磨するからこそできることではないでしょうか。この素晴らしい2校をぜひとも残してください。</p> <p>11. 西村山地域全体を俯瞰した場合、周辺自治体の年間出生数が約30人(1クラスの人数)程度の状況から、いずれ近い将来、学校教育法改正と1市4町の枠組みを超えた学校再編の波が押し寄せてくるのは、必至なのではないでしょうか。あくまで私の試案ですが、少子化が進む将来の西村山地区学校像として、①陵南+大江+朝日の連携校 ②陵東+陵西の統合校+西川の連携校 ③河北の単独校、以上西村山3校に集約となっていくような未来予想です。そのため、今後の西村山地域のさらなる学校再編にも対応可能となるよう、2校にするのが賢明な選択であると思います。</p> <p>12. 中学校建設予定地について、まちづくりとの連動をしていく方針であること、候補地は全くの白紙であるとのことですが、巷で様々な憶測が出ています。私が参加した地域</p>	<p>に学べる環境を整備してまいります。</p> <p>16. 用地選定は計画改定後に着手する予定で、現時点では白紙の状況です。今後、用地選定をするにあたり情報管理を徹底してまいります。</p>
--	---

説明会の西根小学校では、「なぜそんなに急いで作る必要があるのか、不思議だ。建設地が決まっています、何か業者の利権がからんでいるのではないかと疑ってしまう。」と発言する方がおりました。これは無理ないと思いません。

それは、教育委員会と建設業界との癒着です。学校教育課の前課長が建設業団体に再就職しており、明らかに忖度そのものだからです。この計画をつくった当時事務局の最高責任者が、現在、業界団体でおもてなしされていることは、変な疑惑を抱かざるを得ません。

ふるさと納税を担当していた前職員（加重収賄と収賄の罪で逮捕）の事件は、記憶に新しいです。納税していただいた全国の方々の善意を台無しにし、ふるさと納税制度と特産品である本市のさくらんぼブランドへの信頼を大きく失墜させました。同じようなことを絶対繰り返さないでください。教育委員会は、建設業界でなく市民の意見を計画に反映させるべきです。

13.寒河江市の中学校創建の歴史と特殊性を踏まえた2校にすべきです。それは、旧寒河江中学校を陵東中学校と陵南中学校に分けた、分けざるを得なかった歴史的経過があるからです。2校の学区ごとにアクセス条件と均等距離というバランスをよく考えて、それぞれ現在地に建てられたとお聞きました。半世紀以上の長い歴史が刻まれています。先人たちの先見の明をもっと尊重すべきです。今回の統合計画は、旧寒河江中学校に再統合することは、孟母三遷、まちづくりの歴史に逆行するのではないのでしょうか。代々、校歌に歌われてきた「世紀の希望」を失うようなことがないように、陵東中学校、陵南中学校を残してください。

14. 地理的条件から1校案に反対です。万一、統合中学校が陵南中学校周辺になれば、陵東学区からのアクセスが非常に不便になります。それは、地形的に長岡山とJR左沢線によって南北に分断されているからです。しかも、アクセス道路の跨線橋が3本しかありません。別ルートの踏切を横切る車両は、通勤通学時間帯には、間違いなく渋滞に巻き込まれます。特に、冬期間は除雪が追いつかず、生徒の徒歩通学が困難になり、結局保護者が送迎しているという今の現状がさらに悪化、渋滞が深刻になると思われます。生徒や保護者、そして通勤のために自家用車を利

	<p>用している方のことを真剣に考えていただいて、現在のところに 2 校を建て替えるしかないと思います。</p> <p>15. 今、世界の先進国や先進自治体を目指す主流は、個性最適化教育と少人数学級で生徒一人ひとりにきちんと学力を身につけさせ、そして個性を引き伸ばしていくというものです。例えば、岩手県安比高原に開校した、世界的に有名な「ハロウスクール」のコンセプトには、「様々な能力と多様なバックグラウンドを持つ生徒に、先見的なハロウの教育を通して、急速に変化していく世界で対応できる力だけでなく、強い個性を育み、生涯学び続ける姿勢、リーダーシップ、奉仕、自己目標の達成など、優秀で自らの力を発揮できる人材を育成します」と書かれています。勉強、運動、学校行事など集団活動ができるからこそ、潜在能力を伸ばせるのです。2 年連続東京大学に合格した東根市にある中高一貫校、少人数教育の東桜学館がそれを証明していますね。簡単に比較できない部分はありますが、公教育において本市の子供たちの未来にもっともっと先行投資すべきではないでしょうか。</p> <p>また、先生方の働き方改革は、この計画の項目ではなく、別の次元で教育委員会が責任をもって対処すべきです。2 校だと教科担当の先生が十分確保できないとか、1 校だと今より質の高い授業が可能になるとか、そのような詭弁はやめてほしいです。説明会でのお話で大変呆れてしまいました。現在の 3 校でも先生方のご努力下、質の高い教育を提供していただいていると確信しているからです。</p> <p>16. 柴橋での説明会でも参加者から指摘がありました。巷に変な噂が流れています。市の職員が中学校統合の土地選定についての変な情報を流しているそうです。</p> <p>その一つが、中央工業団地で現在拡張造成工事を行っている国道 287 号線脇の土地も選択肢だと言っているようです。しかし、工業団地や斎場のそばは、いかがなものでしょうか。</p> <p>もうひとつの候補地は、長岡山の西側の湿地帯だそうだが、すでに大手建設会社が購入しているようです。中学校用地を地上げして利益を得るために利用することは、絶対ダメじゃないでしょうか。</p>	
4	「あり方検討委員会」の議事録によれば、東根市の市長は、生徒数が減っても、小中学校	教育行政については、それぞれの自治体、それぞれ教育委員会の考えに基づき施策が展開

	<p>は合併などせず、それぞれの学校の特色を活かして小規模校として維持していくということです。東根市長は偉い！将来をちゃんと見据えている！</p> <p>それに比べて、寒河江市の市長と教育長は、とほほ…。むしろ辞めてもらいたい。</p>	<p>されております。本市では子育て施策を中心に令和3年度より小学校・中学校の給食費の完全無償化などを実施しております。今後も子育て施策に力を入れてまいりますので、子どもたちの未来を第一に考え、寒河江のことを誇りに思えるような施策を今後も展開していきたいと考えております。</p>
<p>5</p>	<p>国では子育て支援を叫びながら単なるカネのばら撒き施策しか考えていない。学校再編も箱モノ建設しか施策として考えられないんだなと思います。</p> <p>学校にいけない子供が毎年増えている。その背景に学校の統廃合があることはだれしもが認めていることであります。</p> <p>それなのに一番影響を受ける子供たちのことを無視して、未だに学校の統廃合を進めようとする行政の知恵のなさに失望します。校舎の老朽化により建て替えるのと、統廃合は切り離して考えましょう。</p> <p>私も老人ですが、老人施策より子供支援施策におカネを使うべきです。学校運営も子供支援としてとても重要な課題のひとつです。</p> <p>これからの国を背負っていく子供たちの教育にはいくらお金をかけてもいいと思います。</p> <p>小規模で学校運営が厳しくなるという、そのシワ寄せを子供に強いるのは間違いです。子供達には通学に負担をかけるべきでない。原則歩いて通える地域に学校であることが望ましい。</p> <p>学校は地域内にあるべきです。地域内であれば通学の為のスクールバスは必要ない。</p> <p>小規模校内に専門的知識の先生が必要であれば、その時間は車で移動手段がある近隣の先生をシェアすればいい。</p> <p>例えば、いま国立大学の共同獣医学部では、足りない専門分野をそれぞれの教授が他校に赴き学生に授業を行う制度もあります。それにより、一つの大学で抱える先生の数も少なくても多くの専門分野の知識を学生が学べることとなります。</p> <p>このように寒河江市内で先生をシェアし例えば、どこの学校に在学していても寒河江市内の生徒は同じレベルの授業を受けることができます。</p> <p>また、体育や音楽など多くの生徒と一緒に学習しなければならぬ授業があるとすれば、</p>	<p>本市では、子育て施策はとても重要であると考え、これまで給食費の無償化などに取り組んでまいりました。</p> <p>不登校児童生徒が増えているのはご指摘の通りでございます。これは全国的なものですが、文部科学省が実施している令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果によると公立中学校の不登校の主たるものは、無気力・不安によるものが50%をこえる結果となっております。</p> <p>少子化の時代において、子どもたちが安心して学べる快適な教育環境を維持するためには、校舎の老朽化と統廃合は一緒に考える必要があるものと考えております。</p> <p>小規模校において児童生徒数が減少すると複式学級が生じます。複式学級解消に向けて、特認校制度などに取り組んでまいりました。</p> <p>小規模校に関してご提案の取組は大学等で実施されている事例かと思いますが、公立の小中学校においてもすでに小規模校で同様の取組が実施されております。しかし、先生方の負担が大きいことや、通学時の移動ではなく、授業ごとに移動が生じるのは子どもたちにとって負担が大きいものと考えます。</p> <p>今回の見直しにより小学校は、西部地区に1校、西根小と三泉小を統合した小学校を1校整備する計画となっておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>醍醐小を活用する計画から見直しを行った理由については、当初の計画では醍醐小を活用し、そこからさらに5校を1校に統合する計画でしたが、西部地区から小学校がなくなることへの不安、小学校と中学校で統合を2回経験するお子さんが生じることへの不安の声を多く頂戴しました。みなさまより頂戴したご意見やそれぞれの学校の築年数、立地条件などを総合的に勘案し、西部地区の拠点となる小学校を1校整備することで今回の見直しを行ったところです。</p>

	<p>その時間こそスクールバスを利用して近隣の学校に生徒を送り届けば、他校の多くの子供たちと楽しい授業を受けさせられると考えます。</p> <p>新たに大きな学校を建設しなくても子供たちの教育はできます。</p> <p>他の自治体にはない、他の模範となる「さがえっこ」の教育現場を皆で作っていきましょう。</p> <p>結論として すべての学校の統廃合には反対します。 子供第一主義で学校経営を考えていきましょう！！</p> <p>当初案にあった醍醐小学校を基盤とするが、高松地区に新たに高松に小学校を建設すると変更になったことも理解できないので説明が欲しいです</p> <p>まだ納得がいけないので、第2弾の意見を申し上げます。</p> <p>当初の計画に高松、醍醐、白岩小学校を、醍醐小学校を活用して統合するとありましたが、改定案では新たに高松小学校敷地内に新校舎を建設するとあります。</p> <p>まだ新しいそして素晴らしい校舎を利用しないで、新たな箱モノを作ることに反対します。高松の校舎を改築しなければならないのであれば、今の高松小学校の規模で建設すればよいと考えます。</p> <p>そして醍醐小学校を基盤の小学校として、西部地区の子どもたちが学習に運動に遊びに活用できる学校にすればよいことです。</p> <p>その移動のためのスクールバスであればスクールバスも活用されます。子供たちの負担も軽減します。</p> <p>箱モノを建設するお金があれば、子供達のソフト面にお金を廻してください。</p> <p>箱モノはいりません！！</p>	
6	<p>1 小学校の(段階的)5校案</p> <p>① 市民の意見を取り入れ、各地区に配慮した結論だと思う。</p> <p>② 問題は、高松・白岩・醍醐地区は人口減少が顕著な地区であり、学校新築は早晚、統廃合の問題が浮上する可能性が大であると考えられる。</p> <p>③ その課題を解決するためには、西部地区(特に高松地区)に、市の公共施設等の新設・移転等をセットで行い地区の活性化を図り、住みたい・住みやすい地域を図る必要がある。</p>	<p>小中学校の統廃合に関連してご提案いただきましたまちづくりの視点からの対策は必要であると考えておりますので、市長部局と連携して取り組んでまいります。</p> <p>用地選定について、計画改定後に行う予定です。頂戴しましたご意見については、今後の用地選定の参考とさせていただきます。</p> <p>学校の跡地利用につきましては、庁内で検討しておりますので、頂戴しましたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p> <p>新しい中学校の設置に向けて、計画本文中25ページに実施計画として記載しております。</p>

	<p>2 中学校1校案</p> <p>① 子どもの多様化、人口減少、科学技術の急激な進歩等を考えると1校案は妥当と思われる。</p> <p>② その理由は、これまでの学校は場所（教室・体育館等・集会室・特別教室等）と教職員等の絶対数が不足していて、多様化する児童生徒への対応が不十分であったことは事実であったろう。子供たちの成育歴環境は著しく変化しており、不登校等の増加は当然の帰結であったと考えられる。</p> <p>③ 新設される中学校には、設置基準を弾力的に運用し、場所と人、そして急激な科学技術の進歩に見合った施設設備が期待される。</p> <p>3 総論</p> <p>① 寒河江市の街づくりには、長岡山をメインにした街づくりが肝要であろう。新設中学校は、長岡山の北西部に設置されることが望ましいであろう。このことは、新設高松地区小学校の人口減少対策にもなる。</p> <p>② 新設中学校は校舎のみならず、周辺地区整備も必要になろう。多目的グラウンド文化センター的施設、集会場や多目的な図書館なども考えられよう。</p> <p>③ 廃校になる学校についても、跡地利用を再編計画と合わせて提案していかないとについて考えないと、地域の活力をそぐことになろう。</p> <p>④ いずれにしても学校再編問題は早急に結論を出し、学校統廃合問題にだけ焦点を当てることなく、将来の都市構想を合わせて提示することによって、前向きに市民の賛同を得られることであろう。</p> <p>⑤ 統合に関係する学校のPTA連絡協議会・子どもたちの合同学習、循環バスの利用、学校への市民参加等々、様々な市民の知恵を拾い集める準備会等の開催も急がれるだろう。</p>	<p>すが、計画改定後に統合準備委員会等を設置する予定です。通学方法、PTAなど様々なことを検討する予定です。</p>
7	<p>3つの中学校を2030年に1校に統合すると過大規模校として多くの問題が生じます。陵西中を陵東中に統合するのが、生徒の諸活動のために良いと思います。生徒数が多すぎず、少なすぎず、適正規模にしたいものです。</p>	<p>生徒数の推移は計画本文中8ページに記載しております。中学校を1校とした場合に、統合当初の人数はご指摘の通りでございますが、中長期的な生徒数の推移を考え、統合時期を令和10年から12年に見直し、中学校を1校とする計画としております。</p> <p>また、ご提案の統合を行った場合、統合当初は適正規模の学校となりますが、中長期的に適正規模の学校を維持するためには統合後数年も経たないうちに再統合や学区再編などを検討する必要があります。将来的なことを見通せない状況が続くことは、子どもたち、保護者のみなさまにとって負担が大きいものと考</p>

		えておりますので、中学校1校案にご理解いただければと思います。
8	<p>中学校1校案に反対します。</p> <p>多すぎる生徒数に対して、教員による丁寧なケアは望めないと考えるためです。市の将来的な財政効率化を図るために教育を蔑ろにすることは本末転倒です。</p> <p>代替案として、陵東中及び陵西中学区に小中一貫校の設立を提案します。これにより、当該学区への人口増加が期待でき、現在の中部小学区への一極集中が緩和されると考えられます。</p>	<p>生徒数の推移は計画本文中8ページに記載しております。全国的な少子化の影響を受けて、本市でも児童生徒数の減少が見込まれております。中長期的な生徒数に応じて子どもたちが安心安全な学校生活を送れるようにハード面、ソフト面での対策を充実する予定です。</p> <p>ご提案いただきました小中一貫校につきましては、教育委員会内でも検討をいたしました。例えば、令和11年に陵西中学校区で小中一貫校を設置した場合、学校全体の児童生徒数は約220名規模の学校となりますが、中学校においては選択したい部活動、団体種目などを選択することが難しくなることが想定されます。令和11年に陵東中学校区で小中一貫校を設置した場合、児童生徒数は約900名となります。</p> <p>本市の教育において、児童生徒の発達段階に応じた学校を設置することが最適であると考えておりますので、中学校1校案にご理解いただければと思います。</p>
9	<p>改定案に賛成する。</p> <p>中学校1校案に反対の意見もあるようですが、1000人規模は最大であり減少していくのは確実。</p> <p>1校では競争心や切磋琢磨が期待できないなどとの意見もあるが、2校にしても同様と考えます。</p> <p>市内のみでなく、西郡の学校との交流を図ることで解消出きるのではないのでしょうか。</p> <p>市の財政面も考慮すべきであり、中学校1校案に賛成する。</p> <p>小学校統合で使用しなくなる設備で、継続使用可能な醍醐、三泉の校舎の利用計画、グラウンド、体育館などの地域活動に使用できるようお願いします。</p>	<p>西村山の中核となる学校として、また、西村山の各教育委員会と連携強化を進めてまいります。</p> <p>財政面につきましては、市民のみなさま、未来の寒河江を担う子どもたちの負担が最小限となるように様々な施策の活用を検討してまいります。</p> <p>学校の跡地利用につきましては、庁内で検討しておりますので、頂戴しましたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>いくら何でも4万人の市で中学校1校は無茶、問題が多すぎる。せめて2校にして下さい。</p>	<p>ご指摘のとおり人口が4万人規模の自治体において、中学校を1校とした事例は今のところありませんが、少子化の問題を真剣に考え、中長期的な生徒数の推移や子どもたちの発達段階に応じた教育環境などを総合的に考えての中学校1校案ですので、ご理解いただければと思います。</p>
11	<p>中学校を1校にする案に、反対です。千人規模になりますと、いくら先生方が増えたとしても生徒1人1人に目が届きにくくなりま</p>	<p>生徒数の推移につきましては、計画本文中8ページに記載しております。令和12年の開校当初はご指摘の規模ですが、令和17年</p>

	<p>す。 有識者会議の方々は、1校にすれば「切磋琢磨できる環境と社会性が育成できる」などおっしゃっていますが、それはピラミッドの上にいる一部の生徒だけで、その下の大半の生徒はおいてきぼりです。 今の寒河江市の政策が良いからと市外から移り住んで来てくれた若い人々はガッカリではないでしょうか。 私の考えです。 西部地区、陵東学区に小学校を新設する予定でしたら、そこに中学校を併設するのは、いかがでしょうか。 東日本大震災後の太平洋岸ではやっているそうです(有識者会議)是非検討して下さい。 未来を担ってくれる子ども達には投資すべきです。</p>	<p>頃には約800名となる見込みです。 新設する小学校に中学校を併設した場合、敷地の問題が発生します。学校数が変わらない場合、国庫補助の対象にならない可能性もあり、市民のみなさま、寒河江の未来を担う子どもたちに負担をお願いすることになります。 また、陵西中学校においては、令和9年頃に各学年1クラスの生徒数となることの見込まれております。多様な選択肢の中で学ぶ機会を提供できなくなりますので、ご理解いただければと思います。</p>
12	<p>市内に中学校が1校だけになれば千人規模の学校になるそうです。そうなれば子ども達に目が届きにくくなるのは目に見えています。思春期の頃でもあり、不登校の問題や様々な困難を抱えた子ども達のフォローが出来るのか甚だ疑問です。私は一学年8クラスの中学校生活を経験しましたが、同じ学年でもよく知らない生徒が大勢いました。それ以上の人数になるので、生徒同士の一体感も薄れるだろうと思います。 市としては財政の問題から統合案を出しているのですが、教育はお金の問題ではないと思います。少子化が問題になっていますが、子どもをもうけない理由として、子どもの将来に希望が持てる社会になっていないということがあげられます。何よりも第一に子ども達に投資をして手厚い教育を受けられ、1人1人の子どもが大事にされ、この地域で暮らしていくのが幸せだと感じられる社会をつくるのが大人の責任なのではないでしょうか。 小学校を統合して新しい学校を建設するようなので、同じ場所に中学校も併設すれば、中学校を減らさなくても良いのではないですか？子ども達のため、地域のため、中学校を1校に統一する計画の撤回をお願いします。</p>	<p>生徒数の推移につきましては、計画本文中8ページに記載しております。令和12年の開校当初はご指摘の規模ですが、令和17年頃には約800名となる見込みです。 子どもたちに目が届かなくならないように対策を講じてまいります。不登校や様々な困難を抱えた子どもたちをフォローできるように取り組んでまいります。同じ学年で交流する機会を多く設け、生徒同士の一体感が深まるような取り組みを検討してまいります。 教育はお金の問題だけではないと思いますが、子どもたちにとって快適な教育環境を維持するためには、財源確保は必要です。 子どもの将来に希望が持てる社会となるように、何よりも第一に子どもたちに投資をして手厚い教育が受けられるように、1人1人の子どもたちを大事にし、この地域で暮らしていくのが幸せだと感じられる社会をつくってまいりたいと思います。 子どもたちの発達段階に応じた対応が必要であると考えて、中学校1校とする案としておりますので、ご理解いただければと思います。</p>
13	<p>この度学校施設整備計画の改定案が示されました。これまで説明会や外部有識者会議等で合意形成に向けて努力された教育委員会の方々、関係者の方々に改めて敬意を表したいと思います。 下記のとおり、これまでの過程及び策定さ</p>	<p>計画策定前に説明会を2回しか開催できなかったことや、あり方検討委員会の議事録公開に時間がかかってしまったこと、市報などを通じて情報発信が不足してしまったこと、計画策定後の説明会となってしまう決定された計画の内容説明となってしまう点につき</p>

<p>れた改定案等について意見を申し上げます。</p> <p>意見1 整備計画策定のすすめ方について 【意見1-1 市民との合意形成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民との合意形成について、計画策定の最初の入り口で誤りがあったのではないかと。それはパブリックコメントに30人から50件の過去に例を見ない多くの意見が出たにも関わらず、ほとんど考慮されないまま整備計画を決定してしまったことだと考えています。これは大きな反省点です。 <p>【意見1-1の理由】</p> <p>きちんと議論する前に計画を決定してしまった。そのためにその後の説明会は決まったことの説明だと多くの市民は受け止めざるを得なかった。事実執行部は「計画は決まったのだ」と当初は言っていました。ここはとても大事なポイントです。よって参加人数は増えなかった。「もう決まったんだべ」と、何人かが私に言われたとおり、市民の多くが入り口でこう感じ取ったのです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人はとても謙虚な心性を持っており、公的機関が決めたことに物申すのは憚られかつ勇気がいることですし、難しい。だからこそ関心を持ってもらうため、入り口で決定してはならないのです。 この誤りはなかなか取り返しがつかない。途中で計画の見直しを示唆したものの決定されたという事実は重い。例えば小規模学校の良さを意見する人は計画案に反対の立場をとる人とみられてしまい、賛成か反対かの二項対立から離れて自由に考え意見を交換することができなくなってしまったのです。本来は一部見直しではなく一旦白紙に戻しての議論が必要でした。 <p>【意見1-2 外部有識者会議について】</p> <ul style="list-style-type: none"> これからも外部有識者会議を催す機会があれば、市民や教育委員会など様々な考えの真中に立つ構えで臨んでほしい。広い視野で議論の真中に立ち周囲を見渡せる人がいるからこそ市民は安心して自分の考えを深めることができ、議論の安定感を保つことができるのです。 <p>【意見1-2の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民にとって外部有識者会議の価値は、市民に新たな視点や考え方を提供することにより、市民が「ああこういう見方や考え方もあるのか」と感じ取ることができるようになることです。数多くの貴重な意見に感謝したいと存じますが、まちづくりとの関連性を重視された意見は市民にとって重要なことだけにもう少し掘り下げていただきたかった。 	<p>ましては、ご指摘のとおりでございます。</p> <p>意見1 整備計画策定のすすめ方について 意見1-1への回答</p> <p>前回のパブリックコメントや説明会等で頂戴した多くの方のご意見が反映できる計画となるように今回見直しを行っております。</p> <p>今回の見直しにおいて、小学校は5校を1校とする案から5校を2校とする案に見直しをしております。中学校につきましては、子どもたちの発達段階などを総合的に検討し、統合時期を令和12年に見直ししております。</p> <p>意見1-2への回答</p> <p>外部有識者会議での議論は、市内の中学校での経験を活かしたご発言であったものと考えております。教育分野のみならずまちづくりなど様々な分野の専門家にお集まりいただき、それぞれの視点でご助言を頂戴したところでございます。</p> <p>意見2 改定案について</p> <p>社会の変化に柔軟に対応できるように取り組んでまいります。</p> <p>子どもたちの発達段階に応じて小学校と中学校について検討してまいりました。</p> <p>小学校についてはご指摘のとおりでございますので、今回の見直しにおいて高松小学校敷地に拠点となる小学校を1校整備することとしておりますので、中学校1校案については、ご理解いただければと思います。</p> <p>意見2-1に対する回答</p> <p>地域コミュニティは時代とともに求められる役割が変化しているものと考えます。</p> <p>統廃合が実施された田代地区、幸生地区においても地域コミュニティが維持され、白岩小学校に引き継がれているものもあります。</p> <p>計画改定後には統合準備委員会を設置する予定です。地域において学校がはたす役割の再検討を行い、地域の皆様の意見を反映させながら統合を進めてまいります。</p> <p>検討するにあたって児童数の減少と財政・財源の情報として市民のみなさまに提示すべき情報であったと考えます。説明会でもそのような情報がないと検討できないと子育て世代方よりご意見を頂戴しております。</p> <p>適切な数字をもとに将来を予想し、どのような対策が講じられるかを検討することは必要であると考えます。</p> <p>新しい時代の学校を考えるうえで、現在の学校がどのような施設になっているかの情報</p>
---	---

・もうひとつ指摘しておきたい有識者の意見がありました。第一回目の会議で「中学校を1校にする場合のメリットとしては、(生徒たちは)自分たちが捉えていた地域の範囲が拡大して今までよりも広い範囲で寒河江を捉えて…寒河江市全体の未来をより考えるようになる…」と述べておられます。

1校統合により生徒のふるさと寒河江市の未来に対する思いが強まる?えっ?一瞬そうかと思ってしまうですが、よくよく考えると何の根拠もないことにすぐ気づきます。中学校が2校であれ3校であれ寒河江市全体の未来を考える生徒を育てることそして育つことは十分可能ですね。もし難しいと言うならばそれは一体誰の責任なのでしょう?どう考えても1校に統合する場合のメリットにはならない。むしろ1校にするための理屈付けになっています。

こんな気づきを得たのも、ある県外他市における審議会(当市のあり方検討委員会に相当)の議事録を読む機会があり、その座長のすすめ方に議論の真中に立つ有識者のあるべき姿の一端を感じ取る事ができたからだと思います。

意見2 改定案について

【意見2-1 小中学校の統合案と地域コミュニティについて】

・社会変化のうねりは、「力」を宿す「大規模化・集中化・統一化」から「ウエルビーイング(幸福)」をもたらす「小規模化・分散化・多様化」の方に、ゆっくりではあるが確実に舵を切っていると感じています。小規模な人の集まりである地域コミュニティは学び育て助け合いながら人々の暮らしを支えるまちづくりの単位となるもので、「学校」がなくなることは地域コミュニティの中心を失うことに等しい。人口減少はよりすすみ当該地域が衰退に向かう速度は早まってしまう、この責任は一体誰が負うのでしょうか。小中学校の統合案は市民の意見にみられるとおり、様々な不安や心配を市民に抱かせていることを踏まえ、中学校は2校残すよう再考していただきたい。

【意見2-1の理由】

・歴史的にも地域コミュニティの中心である「学校」には他の施設にない重要な存在意義がいくつもあります。「学校」が地域コミュニティの中心であるというとき、それは「学校」が学校施設というただの箱物ではなく、そこで学び暮らした地域の人々が育む共同の精神(相互扶助や生活文化継承の精神など)が深層となって積み重なり、児童生徒へ

提供は市民のみなさまに検討いただく上で必要な情報であったと考えております。

意見2-2に対する回答

昨年度の説明会においては、財政面による説明以外の部分を重点的に説明してりましたが、説明会にご参加いただいた方より財政的な部分の資料もないと検討できないというご意見を頂戴しましたので、10月の説明会においては、財政面の資料も含めてご説明したところです。制度全体の説明はご指摘の通り不足しておりましたので、今後の説明においては、制度全体がわかるような説明とさせていただきますと考えております。

市の財政的なこともあり、学校施設の長寿命化改修等に早期着手できなかったため、ご指摘のとおり早めの適切なタイミングで実施できていれば市の負担は推計いただいた通りとなった可能性がございます。

財政問題は専門的なことも多いため、市民のみなさまにとってわかりやすい説明となるように今後も注意してまいります。

市民のみなさまが参加しやすいように今後も工夫してまいります。

児童数につきましては、計画本文中8ページに記載しておりますが、南部小学校の児童数は令和11年に196名になる見込みです。

南部小においては、令和4年度にトイレの大規模改修を行い、令和5年度に大規模改修工事を実施しております。さらに、令和6年度には照明のLED化を行う予定としております。今回の見直しにより、寒河江小学校、寒河江中部小学校、柴橋小学校、南部小学校については、令和13年より学校の適正配置について検討を行う予定としております。

意見3 学校再編で現れた大切な課題について

意見3-1に対する回答

公共施設に関することは全市として取り組む課題であると認識しておりますので、市民のみなさまが安心して発言できるように、また、参加型となるように取り組んでまいります。

次の世代へと受け継がれていく掛け替えのない場であることを指しています。廃校が想定される地域コミュニティにおいてこの精神に深い断層が生ずることに、私だけではない市民の不安の根っこがあるのではないのでしょうか。

・児童数の減少と財政・財源の二つを根拠とする計画案は、数字やデータを駆使する経済合理性に基づいています。もともとこれになじまない「学校」は地域コミュニティの共同の精神性に基づいた存在でもあるのです。

・しかし小規模学校の良さは様々な基準の名のもとにかき消され、大規模中学校や統合小学校に対する懸念は「有識者」による新しい学校施設（箱物）のすばらしさを謳う講演によって沈んでいこうとしています。

本当の豊かさとは何か、これまでにない大きな問いを前にして私たち市民は立ちすくんでいます。

【意見2-2 中学校1校案と財政面の課題について】

・教育委員会の説明資料をみると中学校を2校とする場合、1校は単独で建替える必要がある。しかし単独建替えでは補助金がでない可能性が高くなることから国庫補助のある統合への誘引が非常に強まってしまふ、当市の計画はこうした背景をもとに組み立てられたのではないかと推察されます。

多額の国庫補助のあるなしが再編の方針に大きな影響を及ぼすのであれば、計画をすすめるに当たっては補助金の有無など財政面に関する判断に必要な事前知識を持てるよう、予め適切なタイミングで市民に説明する責務があったのではないのでしょうか。

【意見2-2の理由】

・上記の問題意識を、私の居住地にある南部小学校を例にとり申し上げます。説明会資料では南部小など4小については令和13年度に適正配置に関する検討を始めるとあります。では多くの地域住民が寒河江小との統合ではなく単独で南部小を残したいと考えた場合はどうなるのでしょうか。その時点で寒河江小と南部小の建替えしか老朽化対策がないとすれば、それぞれの学校は国庫補助のない市の全負担で建築することになります。それに対し2校が統合する場合は1/2の補助があるため、単独で残そうという民意は菱み議論は大きく統合に傾くでしょう。

これが今回の中学校再編から学んでいることですね。改定案のとおり適正配置の検討時期を令和13年度とすれば上記のようになる可能性は高い、という新たな問題意識が

生まれてきます。
・さてにわか勉強で長寿命化改修のことを知りました。その具体的な内容を「学校施設の長寿命化改修の手引き」（文科省、平成26年1月刊）により知ることができます。

これによれば、長寿命化改修は新築や増築に比べ工事費用は約4割縮減できること、また国庫補助として1/3の補助があり、市町村の実質負担率は26.7%になること、また改修の適切なタイミングはおおむね築後45年程度までとされていること等が記載されています。

・教育委員会の説明会資料では中学校を2校にする場合陵南中の建替え費用について国庫補助は対象外ですべて寒河江市の負担になるとされていますが、仮に長寿命化改修をもっと早めに適切なタイミングで実施できていたとするならば市の負担は次のようになると推計できます。

60億円（建替え工事費用）×（100%－40%（工事費用の縮減））＝36億円（長寿命化改修工事費用）×実質負担率26.7%＝9億6千万円（市負担工事費用）。長寿命化改修で対応していれば60億円が約10億円で済むこととなります。

・財政問題には専門的な知識が求められるだけに、市民が「納得」する前に「説得」されてしまう場合が少なからずあると思われる。今後は様々なケースにおける対策等について早めに説明し市民と議論する必要があります。

意見3 学校再編で現れた大切な課題について

【意見3-1「市民参加」について】

・「学校」など「公共」を巡る問題について、行政には「実現できることもあるしできないこともあるが、みなさんと一緒に頭をひねりましょう。」という参加を促す開かれた謙虚な態度が求められます。「安心してもの言ってもいいですよ。」という「市民参加」の雰囲気と方策づくりは行政が何よりも優先し率先して取り組むべき課題です。

【意見3-1の理由】

・学校が無くなるという多くの市民が困る問題だからこそ市民抜きでは解決しえない。この当たり前のことが当市の学校再編で如実に現れた一等大切な課題であり、当初多数提出されたパブリックコメントがその証しだと深く確信しています。

・学校施設整備計画など市民の生活基盤に関わる重要な「公共」問題を前にすると、改

	<p>めて行政と市民の信頼関係の真価が問われます。人口減少が続くなか今回のように、今後益々「公共」施設やサービスが削減されたり集約されたりしていくと予想されます。増やす政策には誰も文句は言わないけれども減らされるとなれば誰もが困ったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だからこそ市民が十分に意見を述べる事ができるよう、様々な創意工夫による「市民参加」が不可欠になるのです。行政の事務能力と権限及び有識者の専門的な知識に頼るだけでなく、市民の意見を宝として可能なものはこれまで以上に積極的に市政に生かす、これが持続可能な「まちづくり」の王道でしょう。 ・また「公共」施設やサービスは誰のものでもない、市民一人ひとりの「みんなのもの」ですね。「公共」は「お上」のものではなく、「お任せするもの」でもないのです。市民は「公共」施設やサービスを受ける側でもあり、またそれを良きものとして維持していく役割を持っています。市民自身が「委ねる」から「参加する」に意識を変えていかないと、「地域コミュニティ」や「まち」そのものの維持が困難な時代に入っているのではないのでしょうか。 <p>結び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上、当初から関心をもって整備計画策定の経過を見てきた一市民として、大変僭越ですが現時点でこれだけはと思うことを述べさせていただきました。理解不足や知識不足、拙い表現が多々あると思いますが、お許し願えればありがたいと存じます。 <p>教育委員会や関係者のみなさんのご努力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも広い視野で市民を導いて下さるよう切にお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標にある「地域に根差した教育」に矛盾している。 ・IT 教育についても、IT のメリットはどこに住もうと同じ教育が受けられることである。それなのに、集約（物理的）を計ろうとしている。これも矛盾。 ・大規模校のメリットは予算・金の節約だけであり、教育を人の育ちを考えたものではない。統合のメリットを誇張しているが、全てぎまんである。 ・子どもの育ちを考えれば、現在の寒河江市においては、中部小学校などの大規模校をさ 	<p>第2次寒河江市教育振興計画の基本目標として、ふるさとを愛し、寒河江から夢のある未来を切り拓く人づくり～共に学び 共に育む～を掲げております。この目標に対して、今回の計画改定(案)における矛盾はないものと考えております。</p> <p>寒河江市学校施設整備計画改定(案)本文中7ページに多様な学習内容・学習形態に対応した学習環境について記載しております。新しい時代の学びは個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実であり、ICTの活用により、時間や場所に限定しないシームレスな学びが</p>

	らに2・3校に分けるほうが良い。	<p>可能となるような学校施設整備において対応してまいりますので、この点においても矛盾はないものと考えております。</p> <p>学校建設に伴い将来的な財政負担が生じます。この点を踏まえて検討することは大事であると考えます。</p> <p>寒河江中部小学校につきましては、仮設校舎の建設や通学区域の弾力的運用などに取り組んでおります。今回の見直しにより、寒河江小学校、寒河江中部小学校、柴橋小学校、南部小学校については、令和13年から検討することにしております。</p>
15	小学校も中学校も大きく合同すれば誰が考えても良い事は無い。生活を切り詰めて支払う私たちの税金の無駄使いだ！ゼネコン関係をよろこばすだけ	<p>児童生徒数の推移については、計画本文中8ページから11ページに記載しております。少子化は全国的な問題であり、本市としても対策について十分に検討する必要がありますので、改定案についてご理解いただければと思います。</p> <p>新しい学校づくりにおいては、市民のみならず、未来の寒河江を担う子どもたちの負担が最小限となるように財源確保に努めてまいります。</p>
16	地域の学校が一つもなくなり、バス通学となったり、登下校時に子どもたちの姿が見えなくなる統合は反対です。	<p>計画本文中の8ページの児童生徒数の推移などを総合的に考え、今回の改定案としておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>通学方法については、計画改定後に統合準備委員会等を立ち上げ、保護者の方、地域の方とともに検討する予定です。</p>
17	<p>市の1校案は、人口が減るからお金がなくなるからの考えが、前面に出ている！千人規模の中学校に子どもたちも先生方も行きたいと思うか。今年3月陵南中の先生方が、何人か60才の定年もまたずにやめてしまった。大変なのである。不登校だって多いときいている。コロナ世代の子供たちと言われて今の子、どうなのか？もっとフリースクールの先生とか現場の先生や子どもたちの意見を聞いてほしい！</p> <p>私が、新採の時、山三中にいたが、千人位の子どもたち。ろくなことがなかった。2校にすべきだ。</p> <p>20年後、運営費などは、市民からの協力金とか、クラウドファンディングもあり、生徒は隣の市町村に声かけては？寒河江は気候的にも恵まれてる。もっと西村山の礎としてプライドもってやってほしい！</p>	<p>毎日学校に通いたくなるような学校整備を目指して準備を進めてまいります。</p> <p>新しい学校づくりにおいて、よりよい教育が行えるように先生方や子どもたちの意見を取り入れながら進めてまいります。</p> <p>過去の教訓を活かしながら、未来志向の教育について検討してまいります。</p> <p>市民のみならず、寒河江の未来を担う子どもたちの財政負担が少なくなるように様々な方法について検討してまいります。</p>
18	学校統合問題で一番心配なのは、学校の建物よりも子供たちの活動場所が制限されかねないことです。	学校施設整備計画として対応しうることに対応してまいります。また、不安を解消できるように情報発信を強化してまいります。

	<p>中学校の統合は2年間延長されましたが、結局統合することには変わらず、我が家の場合は中学2年生の時に統合を体験することになり、いろいろ不安はぬぐえなくなりました。</p> <p>けれど、建物と人が動く統合よりもっと大切なことは、市内で子供たちをサポートしてくれるような人や場所がないことです。学童は充実しつつありますが、入所できる基準がありますし、所属している、していないに関わらず行ける場所がないことが不安につながっているように感じます。</p> <p>今後できる予定の新しい児童遊具施設は中高生まで通える場所になるのでしょうか。そういったソフト面の市内の活動がみえてこないことが、子供を育てていくうえで、とても不安です。</p> <p>学校がどんなに最良の形で統合を進めたとしても、100%子供たちに合うとは思えないので、個別最適な学びの場所を学校内外に作ることを同時進行で進めてください。</p>	<p>子育て支援施設等につきましては、担当課にお伝えいたします。</p> <p>現在建設中の屋内型児童遊戯施設は、保護者同伴の小学生以下のお子様を利用対象としておりますので、0歳から12歳までを対象とした施設です。</p> <p>学校の内外で個別最適な学びの場所を設けられるように検討してまいります。</p>
19	<p>◎小学校について、①西部地区の3校を統合し、校舎を新築する案は評価します。②西根、三泉小を統合する案については理解出来ません。しかし、寒小、中部、南部、柴橋については、学区の再編も含めて検討すべきと考えます。学区の再編はむずかしい問題があると思いますが、小学校だからこそ、児童、生徒の居住区との繋がりや、通学距離などにも配慮した身近な場所への再編を望みます。</p> <p>◎中学校について、中間報告では3校を1校にする案が出されていますか？1校案には反対です。</p> <p>・大規模校の利点として についてあげられていますが、1校にしなければ出来ない理由は何1つないと思います。むしろ1000人規模の大規模校の方が弊害が多いものではないかと思われま。私は小中学校の9年間を約160名、4クラスの中で学んできましたが、その間一度も同じクラスにならなかった人が数多くおり、名前と顔が一致しない人が多数おりました。それが1学年約300人、10クラスにもなると考えれば、その結果は推して知るべきではないでしょうか。文科省の手引きに大規模校の課題として挙げられていますが同感です。</p> <p>◎この計画(案)に入っていないこと 学校再編は教育委員会、行政、父母など大人達によって進められていますが、この再編の</p>	<p>◎小学校の学区再編につきましては慎重なご意見もあることから、次回の見直しの参考とさせていただきます。なお、寒河江小学校、寒河江中部小、南部小、柴橋小につきましては、令和13年より学校の適正配置について検討を行うと見直しております。</p> <p>◎中学校については、今後の生徒数の推移などを総合的に検討し、令和12年に統合時期を見直しておりますので、ご理解いただければと思います。利点につきましては、文部科学省の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きも参考に作成しております。</p> <p>生徒数の推移につきましては、計画本文中8ページに記載しております。令和12年の開校当初はご指摘の規模ですが、令和17年頃には約800名となる見込みです。</p> <p>◎新しい学校づくりにおいては、子どもたちの意見を伺う機会を積極的に設けてまいります。</p> <p>◎不登校については、ご指摘のとおりでございますので、対応等について検討してまいります。</p> <p>◎通学については、ご指摘いただきました点について配慮を行いながら検討してまいります。</p>

	<p>主人公は児童生徒です。主人公となる児童生徒の声は全く入っていないこれで良いのでしょうか。再編される学校には入れない児童生徒かも知れませんが、自分達が希む学校の姿や、意見なども聞く必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>◎心配される事 今、不登校状態の小中学生が昨年度おおよそ29万9千にのぼり、10年連続で増加していると報道されています。原因は様々であろうと思うが、生徒1人1人への目が届かなくなるのではないかと不安と心配がある。</p> <p>◎中学校一校にする事で生徒の通学はマイクロバスを利用するとなっているが、(全生徒ではないでしょうが)自転車や徒歩での通学により、生徒たちは地域の街並や、景色、風や気候など五感で感じ地域とつながりや愛着が育まれてきたと思うし、地域の人達も生徒たちの成長や日頃の様子などを知る事が出来たのだと思う。 マイクロバスの通学となれば、人と人、地域とのつながりが希薄になると思うし、運行上の経費や不都合なども生じるのではないかと。 二校にする事でそのリスクも軽減されるのではないかと。</p> <p>◎二校にする事は財政的に大きな負担となるとありますが、国の考えている事は第一に経費を削減する事にあると思います。教育にお金をかける事は未来への投資であると思います。</p>	<p>◎財政負担につきましては、市民のみなさま、寒河江の将来を担う子どもたちの負担が最小限となるように検討してまいります。</p>
20	<p>1 小学校の統合について、各学校とも長い歴史があり地域の教育のみならず地域そのものを育ててきた重要な施設でありそれはこれからも変わらないことであろう。そのことを考えた時に現状のまま残していただきたいと考える。</p> <p>2 中学校の1校(案)には反対です。説明会後に1校(案)と2校(案)を併記していましたが、多くの市民が納得できるような説明がないまま1校(案)としている。</p> <p>3 それ以上に同学年の連帯感や活躍を認めてもらえる機会(人数)が少なくなるのではないかと、褒めて育てる、褒められて育つという観点からも落ちこぼれる子供たちが増加するのではないかと。</p>	<p>1 小学校の統合について、各学校とも長い歴史があり地域の教育のみならず地域そのものを育ててきた重要な施設であることはご指摘のとおりでございます。しかしながら、計画本文中の8ページの児童数の推移などを総合的に考え、今回の改定案としておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>2 中学校の統合につきましては、1年以上かけて説明を続けてまいりました。中学校の統合につきましては、統合時期を令和12年に見直ししておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>3 統合後の中学校においても同学年の連帯感や活躍を認めてもらえる機会を多く確保し、褒めて育てる、褒められて育つ観点を大切にしております。</p>

	<p>4 また、先生方の活躍の場が減ることにより教師としてのやりがいと保たれるだろうか。 教員になったからには“いずれ学校経営を試みたい”と思う方々も多くいるのではないだろうか。 人（同僚）任せの責任感の薄い教師が生まれるのではないだろうか。</p> <p>5 先に学区の再編は行わないとの決定がある旨を記憶しているが再考していただき、学校のあり方を根本から考え直してもらいたい。 特に小学校統合に関係がない地区の住民の無関心さが気になる（小学校統合に関係がない地区の人口、世帯数とも特段に多い…70%以上）。 これから数十年続くであろう“教育施設”をつくるのであれば、もっともっと多くの市民に関心を持ってもらうことが必要だと考える。 全ては“我が事である”と思ってもらえるような機会をもっともっと時間をかけて作り出していただき結論を出していただきたい。</p>	<p>4 統合後の中学校においても先生方の活躍の場を多く確保し、先生としてのやりがいと保てるように取り組んでまいります。</p> <p>5 あり方検討委員会で約2年、計画策定後に約1年以上かけて説明会などを実施してまいりました。今年10月に開催した説明会においては、保護者の方より計画を早めに進めてほしいとの声も頂戴しておりますので、十分な時間検討したものと考えております。計画改定後も様々検討事項がございますので、多くの方に自分事として考えていただけるように工夫してまいります。</p>
21	<p>10月13日の説明会に参加しました。 これまでの議論を踏まえ、「市内西部地区に小学校1校残すこと」「2段階の統合をしないこと」を計画に盛り込んでいただき真摯に検討いただいたと感じました。学校は地域の拠り所であり、地域住民の願いということを受け止めていただいたと思います。 大きな学区で学校に通わせる不安も増大します。一定程度（学区の範囲が縮小したという点で）不安を解消いただいたことは学ぶ環境にとって良いと考えます。 しかし、中学校の統廃合については、1校案に心配と不安を覚えるのです。 その理由を2点あげます。 一つ目は特別支援学級の児童・生徒や学習支援を必要としている児童・生徒に対する視点が十分に説明されていない点です。環境の変化を敏感に感じたり、大人数の中でとすると学習についていけなくなると感じたりする児童・生徒が、安心して学校に通うために、環境の変化を和らげるのは必ずしも1校案ではないと考えます。また、特別教育支援員・学力向上支援員が継続して児童・生徒に当たれることも大切です。現状は会計年度任用職員となっており、職の不安定さも気になるところです。複数年で雇用できるような形も必要なのではないでしょうか。</p>	<p>計画改定案にご理解いただきありがとうございます。 特別支援学級につきましては、とても大切な視点であると考えておりますので、今後の新しい学校づくりにおいて対応について検討してまいります。 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の配置については、説明会で回答したとおり、相談時間の増や柔軟な運用等を県へも要望するなどの対応をしてまいります。</p>

	<p>二つ目の理由は子どもたち自身のストレスです。1校の大人数になった時には様々なストレスを感じるようになるでしょう。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの役割の重要性については説明会での教育長の回答の通り、努力いただかなくてはならないと考えます。しかし、2校であれば、陵南中学校についてはそのまま、統合中学校については人数的にもストレスを軽減できると考えます。</p> <p>以上2点から1校案がベストとは考えにくいのが私の感想です。ご再考いただきたいと思ひます。</p>	
22	<p>No.1 寒河江市学校再編に関する外部有識者は、寒河江市立学校のあり方検討委員会が令和3年12月13日に答申した「寒河江市立学校のあり方について」をしっかりと理解していないと思ひます。</p> <p>一例をあげると、答申では中学校2校案が多かったにもかかわらず、市教育委員会は、令和4年3月に「寒河江市学校施設整備計画」を策定し、中学校1校としました。そして、中学校1校ありきで外部有識者会議を進め、学校施設整備計画改定(案)を提示しました。</p> <p>寒河江市立学校のあり方検討委員会の意見が軽視されたと感じます。答申が、改定(案)作成にしっかりと反映されておひません。とても重要なことが有識者会議で審議されず、学校施設整備計画改定版を作成しようとしておひます。これは、市民の声を無視した暴挙と言わざるを得ません。</p> <p>有識者会議をもう一度最初から開催する必要があると考えます。</p> <p>No.2 中学校を2校にした場合について、市教育委員会は第2回有識者会議及び市民に対する学校施設整備計画改定(案)説明会で次のように説明しておひます。</p> <p>「統合して1校を建設した場合、国より補助が出るため、建設費の市の持ち出し分は約半分になります。2校の場合、統合を伴う学校は、1校建設した場合と同様に市の持ち出しは半分になりますが、統合を伴わない学校の建設費は、国からの補助金等が出ない可能性が高い状況となります。(議事録4ページ、説明会資料19ページ20ページ)」</p> <p>しかし、統合は別の方法もあひます。例えば、陵南の大半と陵東の一部を統合し一つの</p>	<p>No.1に対する回答 寒河江市学校再編に関する外部有識者会議において、あり方検討委員会の答申等は各委員に説明したのち、前回のパブリックコメントの結果等も配付資料としてお配りしておひます。令和4年3月に策定した計画が中学校1校案とする計画でしたので、その点についても説明しておひます。あり方検討委員会でおひされた意見、答申、パブリックコメント等のご意見を踏まえ、改定(案)を作成しておひますので、ご理解いただければと思ひます。</p> <p>No.2に対する回答 ご指摘のとおり統合する組み合わせは様々あひます。ご提案をいただいた内容も1つの選択肢であると考えます。</p> <p>しかし、子どもたちのことを第一に考えると中長期的に学区再編を考える必要があひ、子どもたち、保護者の方が安心して将来を見通すことが難しいのではないかと考えますので、ご理解いただければと思ひます。</p> <p>ご提案いただきました学校の特色につきましては、新しい学校づくりの参考とさせていただきます。</p> <p>No.3に対する回答 1校案に対する考えは、No.2の回答と同様でございます。</p> <p>財源につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>No.4に対する回答 外部有識者会議は専門的な知見よりアドバイスをいただき、より良い計画となるために開催したものであひます。</p> <p>まちづくりの視点も大切とのご意見を多数頂戴しましたので、都市計画審議会や市全体の公共施設マネジメントに関連する計画の委</p>

<p>中学校を作り、次に、陵南の一部と陵東の大半と陵西を統合し、もう一つの中学校を作ります。この場合、新中学校 2 校とも統合した学校ですから、2 校とも国からの補助金がでると考えられます。</p> <p>そして、陵南の一部、陵東の一部の地域で学区変更に不満な生徒については、新中学校の 2 校とも「特認校※」にすれば、問題は解決します。つまり、学区変更に不満な生徒は、希望する学校に変更するのです。陵南の一部、陵東の一部の地域で学区変更になった生徒は、新学校編入前・入学前に希望する学校へ編入・入学できるようにします。これで問題は解決します。</p> <p>なお、特認校は、名ばかりではない特色ある教育にします。例えば、通学区域内の居住外国人の協力を得て英会話教育に力を入れる学校にする。もう一校は、地域おこし協力隊員の協力を得て、地域社会との協働活動や芸術の教育に力を入れる学校にするなど、特認校にふさわしい学校とします。</p> <p>※特認校：現在の通学区域の規定を残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、就学を認める制度</p> <p>No.3</p> <p>新中学校の建設整備費について、市教育委員会は第 2 回有識者会議及び市民に対する学校施設整備計画改定(案)説明会で次のように説明しています。</p> <p>「1校の場合は、約 75 億円、そのうち市の負担は約 25 億円、2校の場合は、統合中約 40 億円、そのうち市の負担は約 10 億円、陵南中の建て替え約 60 億円は国の補助がないので市の負担は全額の約 60 億円で、市の負担額は総額約 70 億円を想定しております。なお、この積算は、近年に建設された学校の建設費等を参考に計算したものです。(議事録 4 ページ、説明会資料 19 ページ 20 ページ)」</p> <p>しかし、前述したとおり、陵南の大半と陵東の一部を統合し一つの中学校に、これを A とします。もう一校は陵南の一部と陵東の大半と陵西を統合した中学校に、これを B とします。この場合は、2 校とも国からの補助金が出ると考えられます。この建設費を計算すると次のようになります。</p> <p>「A 統合中は建設費約 40 億円、そのうち市の負担は約 10 億円です。B 統合中は建設費約 60 億円、そのうち市の負担は約 15 億円」と想定されます。A 統合中、B 統合中の</p>	<p>員など本市に関連した方をお願いしております。</p> <p>No.5 に対する回答</p> <p>説明資料につきましては、各地区で生まれ育った子どもたちが、中学校で一緒に学ぶことで、それぞれの考えを認めながら、市全体のことを考える機会が増えるという意味であります。</p> <p>これまでは、高等学校等に進学したときに市内全域の生徒と一緒に学ぶ機会がありましたが、統合後は、中学校の段階から市内全域の生徒と学ぶ機会が創出されます。</p> <p>記載の根拠となったのはご記載いただいた議事録の箇所によるものです。議事録にもあるとおり、「より」という表現をしておりますので、ご指摘いただいているような内容を否定する発言ではなかったものと考えます。</p> <p>No.6 に対する回答</p> <p>外部有識者会議において、多くの方より傍聴いただきありがとうございました。会議運営上至らなかつた点について、次回以降同様のことが生じないように十分な対策を講じていきたいと考えております。</p>
---	--

2校の場合、市の負担は約25億円となります。この市の負担額は、陵南、陵東、陵西の3校を統合して1校にした場合と同じです。なお、この市の負担額約25億円は、ふるさと納税の積立金から負担すれば良いと考えます。令和4年10月26日開催の第2回「寒河江市学校施設整備計画」地域説明会で、新中学校の建設整備費にふるさと納税の積立金を充当することを提案しています。市教育委員会は取り組んでいるのでしょうか。しっかり対応するよう再度提案します。
※ふるさと納税の積立金：ふるさと納税寄附金によるまちづくり基金(令和4年度末見込み38億5900万円)

No.4

有識者会議の委員構成に問題があります。学校運営、学校経営に精通した人になるべきですが、そうではない人が選出されています。

例えば、ある委員は「私は、子ども環境、建築計画、都市計画を専門にしております。」と自己紹介していますし、別の委員は「専門は、省エネルギーや再生可能エネルギーをやっております。」と言っています(第1回議有識者会議議事録3ページ)。さらにある委員は、「実際の学校の経営とか教育内容とかわからないので判断しかねるわけですが、人口4万で1校か2校かは迷うところがあると思います。(同議事録21ページ)」と発言しています。

このような委員で構成された会議において、学校施設整備計画を審議し改定案を作成したのは、問題です。受け入れることはできません。

また、あり方検討委員会が答申した中学校の統合案(2校にする意見が多かったこと)は、改定案作成に反映されておりません。重要なことが有識者会議で審議されませんでした。さらに、「市教委は、市民の指摘などを踏まえ、中学校の2校化、5小学校の一括統合といった新たな提案を追加していた」と2023/7/20報道にあったとおり、追加提案していた中学校の2校化を急遽1校に変更しました。このことは、市民の声を無視した対応と言わざるを得ません。

以上のことから、有識者会議は、学校運営に精通した委員を改めて任命し、あり方検討委員会の答申内容(2校にする意見が多かったこと)をしっかり説明したうえで、学校施設整備計画改定案を再度審議すべきです。

※山形新聞 2023/7/20 記事の抜粋
寒河江市内の小中学校を再編する学校施設整備計画の改定を巡り、市教育委員会が、中学校の統合時期や小学校の配置に関し、有識者会議などでの説明内容から軌道修正する方向で調整していることが19日、関係者への取材で分かった。中学校3校を1校とする時期を当初の2028年度から先延ばしするほか、小学校のうち5校を1校にする当初方針から、5校を2校にする案が浮上している。

市教委は、22年3月策定の現計画に対する市民の指摘などを踏まえ、中学校の2校化、5小学校の一括統合といった新たな提案を追加していた。

20日に開かれる市議会議員懇談会に調整内容を提示するとみられている。

No.5

市民に対する学校施設整備計画改定（案）の説明会の資料を訂正する必要があります。

説明会資料 13 ページ 中学校を1校に統合

する理由②の「市全体が学区となることから、視野が広がり、寒河江市の理解と今後を考える視点、郷土愛の醸成の面からも効果的。」の箇所は削除すべきです。これは第1回有識者会議の委員の意見を集約したものと判断されるが、有識者が下記のような発言をしているのは、大問題です。有識者に相応しくないと考えます。

すなわち、中学校が2校や3校であっても、市全体のことを考える子供は育ちます。現に、歴代の寒河江市の市長や副市長は、市の中心部から離れた学校を卒業しているのではないのでしょうか。

（第1回有識者会議の発言内容）

①1校にした場合のメリットのことですが、寒河江は広いので、それぞれの資源があることを考えると、自分たちが捉えていた地域の範囲が拡大して行って、今までよりも広い範囲で寒河江を捉えて、今までの範囲をこえた大人の方々と関わるのが可能になり、寒河江市全体の未来をより考えるようになることが、今後の寒河江市の発展に大きく寄与するのではないかと思います。（議事録 22 ページ）」

②1校にした場合、寒河江市全体のことを考えることができる子どもを育てることができる、未来を担っていく子どもたちを育ていくことができるということがよく分かりました。（議事録 23 ページ）」

	<p>No.6</p> <p>第1回有識者会議で傍聴要領を守らない者がいたが、市教育委員会は注意しませんでした。会議をしっかりと運営するという意識に欠けていると思います。</p> <p>大問題です。学校再編業務に集中して取り組んでほしいと考えます。</p> <p>具体的には、市教育委員会が会議終了の挨拶をした時に、大きな拍手をした寒河江市議会議員がいました。市民を代表する職務に当たっている者とは思えない行為でした。市全体の士気に影響すると思いました。このため、私がおの場で即座に注意しています。</p> <p>今後、このようなことがないように管理を徹底してください。</p>	
23	<p>学校施設整備計画(改定)案への意見</p> <p>①小学校再編については、当初の計画が改定されて、西部地区に(高松小学校)一つ小学校を残すことを歓迎します。</p> <p>②改定案は中学校統合では、3つの中学校を1校にする統合案は変わらず、統合時期を2年間延期するとしています。陵西中と陵東中の統合と陵南中の2校にすべきと考えます。また、中学校区の学区再編もおこなうことを求めます。</p> <p>○中学校2校案の理由</p> <p>1、昨年のパブリックコメントでも、中学校2校への意見が強く出されていました。</p> <p>①マンモス中1校でなく中規模で2校にしてください！小学校ももっと検討してください！答申にある中学校保護者のアンケート調査の結果、6割以上が現在の2校を望んでいることも十分踏まえているのでしょうか。山形市のような都市型の9クラスのマンモス校1校の統廃合は、かなり無理が生じます。本市の目指すべきは、陵南中学校と陵東・陵西中の統合中学校にする中規模校2校が、身の丈に合った自然な集約の形ではないでしょうか。グローバル化を理由にするのであれば、世界の常識は、少人数学級による集中授業です。さらに、教育費については、OECD主要国で最下位の情けないレベルです。ベースとなる「さんさんプラン(16人から33人学級)」は故高橋和雄知事時代ですので、30年前の偉業であります。時代は、もっと進んでおり、先進自治体の規模については30人以下の少人数学級です。どうか、子どもたちの未来に先行投資して、教員を増</p>	<p>①計画改定案についてご理解いただきありがとうございます。</p> <p>○中学校2校案の理由に対する回答</p> <p>1、令和4年2月に実施したパブリックコメントにおいて、中学校2校案について多くのご意見を頂戴したのはご指摘のとおりでございます。</p> <p>①生徒数の推移は計画本文中8ページに記載しております。中学校を1校とした場合に、統合当初の人数はご指摘の通りでございますが、中長期的な生徒数の推移を考え、統合時期を令和10年から12年に見直し、中学校を1校とする計画としております。</p> <p>②通学方法については、子どもたちの負担にならないように検討してまいります。</p> <p>③生徒数の推移については、①に記載した通りでございます。ご指摘のありました想定される課題については、先生方と子どもたちと保護者の方と連携し、準備を進めてまいります。</p> <p>2、あり方検討委員会の答申、文部科学省が示している手引きについては、記載いただいている通りでございます。</p> <p>①学校行事等において、係や役割分担を増やし、一人一人が活躍する場や機会が多くなるように検討してまいります。</p> <p>②集団生活において同学年の結び付きだけでなく、異学年の交流にも取り組めるように工夫してまいります。</p> <p>③人間関係が希薄化しないように、交流する機会等を積極的に設け、より多くの生徒と関われるように取り組んでまいります。</p>

<p>やして、学級数も増やして、きめ細かな対面式授業により立派な人間に育てていただきたいのです。</p> <p>②寒河江市で計画を進めている「寒河江市学校施設整備計画(案)」の方向性について、中学校1校案には反対です。市内全域から1校の統合中学校に通うことになる、登下校に今以上に時間がかかり、部活や放課後の学びや友情をはぐくむ時間が制約される可能性があります。現に周辺市町村での学校統廃合では、バス時間などで様々な活動を制約されている実情もあり、市内一律の教育水準を維持することは困難だと考えます。</p> <p>③中学校を1校にするという案について1校だけに、全地域からの生徒を集めることは、時には1,000人を超える子どもたちが集まることにもなります。どこの場所に建設するかは別としても、違った地域から大勢の子どもたちが集まれば、様々な問題が起こることが予測されます。以前にも、学区再編がなされたときは、必ずとっていいほど、子どもたちのいじめや荒れがおこりました。1校に集約することが良い結果になるとは思われません。</p> <p>2、あり方検討委員会の答申でも、文科省の「手引き」から大規模校への懸念がだされ、1校案と2校案の両論併記となっていました。文科省の学級規模の基準は、12学級以上18学級以下(1学級30人の場合)とされており、寒河江市の1校・統合中は32学級で過大規模校になります。文科省では、過大規模校については、速やかにその解消を図るよう促しています。私は、文科省の教育施策がすべていいとは考えておりませんが、この手引きについては全くそのとおりだと考えます。それほど、大規模校の課題があります。(以下、あり方検討委員会報告から)</p> <p>一方、市内1校に統合した場合の課題として、市内全域から通学してくることとなり、スクールバスの整備が不可欠になることのほか、文部科学省手引での大規模校の課題として、以下のことをあげています。</p> <p>①学校行事等において、係や役割分担のない生徒が現れる可能性があるなど、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある</p> <p>②集団生活においても同学年の結び付きが中心となり異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある</p> <p>③同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、生徒間の人間関係が希薄化する場合がある</p>	<p>④先生方が、生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細かな指導を行えるように、チームで対応するなど検討してまいります。</p> <p>⑤生徒一人当たりの校舎面積、運動面積等が著しく狭くならないように配慮し、教育活動の展開に支障がでないように新しい学校づくりを進めてまいります。</p> <p>⑥特別教室や体育館等の利用に当たって授業の割当てや調整がしやすいように工夫してまいります。</p> <p>⑦学校運営全般にわたり、校長等が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が十分に共通理解を図れるように、情報共有などを密に行えるように工夫してまいります。</p> <p>あり方検討委員会において、令和元年11月に実施したアンケートの結果、あり方検討委員会の答申については記載いただいた通りでございます。</p> <p>①から⑦のような課題に対しては、対応策を講じることで、中長期的な生徒数の推移等を考慮し、中学校1校案としておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>3、教育委員会として1校案とする理由としてあげさせていただいている内容は記載いただいた通りでございます。</p> <p>前回のパブリックコメントや説明会などで頂戴したご意見などを踏まえ、まとめておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>①ご指摘のとおり課題も生じることが想定されますので、先生方と子どもたちが連携し、多くの子どもたちが主体的に参加できる機会を創出してまいります。</p> <p>②ご指摘のとおり単なる知識の詰め込みだけの受け身の教育ではなく、いろいろな課題解決に取り組む力、集団の中で自らの能力を主体的に・積極的に発揮する力はとても大切であると考えます。</p> <p>子ども個人の尊厳を尊重し、子どもたちの声にこたえていく教育を目指し、子どもたちが豊かに育つ環境を整備してまいります。一人ひとりに目が届くように、子どもの状態に応じて教育をすすめられる自主性も大切にしてまいります。</p> <p>教育予算の増額については、国・県に対して要望してまいります。寒河江の子どもたちによりよい教育環境を提供することは、時代を担う子どもたちの教育に対する役割・責任であることを重く受け止め、今後の教育行政を進めてまいります。</p>
--	---

④教員集団として、生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細かな指導を行うことが困難であり、問題行動が発生しやすい場合がある

⑤生徒一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある

⑥特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある

⑦学校運営全般にわたり、校長が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が十分な共通理解を図ったりする上で支障が生じる場合がある

また、保護者アンケート調査の結果では、陵西中学校区の保護者の半数は学区の見直しの必要性を感じていますが、陵東中学校と陵南中学校の保護者においては、見直しの必要はないと回答が約 6 割となっており、現状肯定の意識が高い傾向が伺えます。

以上のことから、中学校の適正規模・適正配置については、熟議を経ても一つの結論に集約することができなかつたため、1 校案と 2 校案の両論を併記とすることとしましたが、この件につきましては、他の施設との併設や財政の見通し等、市全体の方向性をも勘案していただいたうえで市当局の判断に委ねることといたしました。

3、市教委の中学校を 1 校に統合する理由に説得力がありません

市教委が中学校 1 校にする理由として次の点をあげています。

- 切磋琢磨できる環境と社会性の育成。
- 充実した教育環境の中で多様な選択肢が可能となること及び地域を考える視点の拡大。
- 教員数の増加とバランスのとれた教職員の配置。
- 10 年後、20 年後をも想定した生徒数の不均衡の解消。
- 財政面からの検討。

しかし、これらの説明は、前回のパブコメでの意見や文科省の「手引き」の指摘に應えるものとなっていません。結局は最後の「財政面からの検討」が結論にあつての説明としか思えません。

①切磋琢磨できる環境は大規模校？ 小規模校は社会性が育ちにくい？

社会性とは、主体的に生きる力のことで、まわりの人たちと力を合わせて物事を成し遂げようとしたり、自分の役割に責任を持っ

	<p>て、社会の中で生きてく力のことです。そういった力は、「大きな学校」と「小さな学校」では、どちらが培われやすいか、大きな学校では、自分一人がやらなくても済むから、どうしてもまわりに無関心になりやすく、一方、小さな学校は、授業でも、学校行事でも、みんなが積極的に責任をもって参加するように刺激されます。みずから主体的に参加するように、いわば「訓練」されます。</p> <p>②「小さな学校」「小さなクラス」の方が教育効果が高い。諸外国で学校規模が小さいのは、それだけ教育効果が高いから、「小さな学校」「小さなクラス」ほど、学習意欲や態度が積極的になり、子どもたちの人格形成・人間的成長にとっても効果的であることが実証されています。学校・学級の規模と教育効果の関係についての研究報告としては、学校の規模が小さいほど教育効果が高まることを実証した「コールマン報告」（1966年）学級の規模が小さいほど教育効果が高まることを実証した「グラス・スミス曲線」（1982年）などがある。また、WHO（世界保健機関）は生徒100人を上回らない学校規模を勧告しています。</p> <p>これからの時代、単なる知識の詰め込みだけの受身の教育では役に立ちません。知識を応用し、いろいろな課題解決に取り組む力、集団の中で自らの能力を主体的・積極的に発揮する力が求められています。</p> <p>子どもの個人の尊厳を尊重した、子どもの声にしていねいに応える教育でこそ、子どもたちは豊かに育ちます。そのためには、一人ひとりに目が届く教育条件と、子どもの状態に応じて教育をすすめられる自主性が欠かせません。教育への公的支出も、OECD（経済協力開発機構）加盟国のなかで比較可能な37カ国中36位と最低水準です。日本は、社会保障も教育も子育ても、国民の暮らしを支える公的支出が経済力に比べてあまりに低すぎます。国に対し、教育予算の増額を求め、寒河江のこどもたちによりよい教育環境を提供することが、時代を担う子どもたちへの親としての役割・責任と思います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	
24	<p>ただ賛成しているだけの者も声を上げねばならないかと思いコメントを送らせていただきます。</p> <p>日本全体で人口減少しており、とりわけ子供数は近い将来どの程度まで減少するのか、ど</p>	<p>計画改定（案）及び児童生徒数の減少に対し、理解をお示しいただきありがとうございます。また、学校規模に関して具体的な体験談をもとにコメントいただきありがとうございます。スケールメリットを活かしながら、寒河</p>

この自治体でもほぼ正確な数値が予想されていて、行政はその数値、数字など、様々な資料に基づき小学校や中学校を新しく建て替えようとしているのだと思います。これは寒河江市だけではなく、同じ問題を抱える日本中の自治体と同じように行動しています。他の地域では小学校の統廃合はごくごく一般的なことで、異を唱えるような部分はどこにもないと感じます。

私は賛成です。

反対派のチラシには、統合後に1000人以上の大規模校となることがいかに教育にとって危険で問題があるかを訴えかける言葉が並んでいましたが、他県から転入してきた私は小・中・高と1000人以下の学校に通った経験が一度もありません。1000人以上の学校にしか通ったことがないですが、「1000人以上でも何も問題がありませんでした」と言わせていただきたいです。

例えば中学校時代は学内の運動部だけで10種類以上ありましたが、その他に文化部も2種類。高校生時代は選択肢がさらに倍以上に。野球部もサッカー部も、AチームとBチームに分かれて練習試合をしてました。

今の時代に同じような事を望むわけではありませんが、多様性の時代に移り変わろうとしているのですから、多様な選択肢の中から選ぶことができる、これからの時代にこそ、価値あることではないかと思います。

大規模校には大規模校のスケールメリットがありますから、それを存分に活かせば近隣の市町村にはない強みになるでしょう。「寒河江市は教育に多様な選択肢があって内容も充実している、子育ては寒河江市で行いたい、子供は寒河江の学校へ通わせたい」と考えるような若者世代が増えることも期待できます。

学校を統合することで、配慮が必要な子供が支援学級と通常学級を行き来しやすくなることも良い点として挙げられます。寒河江市では基幹校にだけ設置してある支援学級がいくつもあります。自分の学校から基幹校に設置されたクラスまで通う子供を見たことがあります。保護者の方が車で送迎されていて、「どの学校にも設置されていればこんな大変なことは必要ないはずなのにな」と強く思ったことを覚えています。

統合すればすべての支援学級がオールインワンで揃うはず。仕事を休んで送迎する保護者の方の負担も減るはず。そしてこれからは子供の数も減りますが、教員の数、専門職員の数も減っていくのです。

江市内外の方にとって、寒河江市の中学校に通わせたいと思えるような新しい学校づくりを進めてまいります。

現在、学校に通っている子どもたちが学習しやすいように、照明のLED化やトイレの改修などを進め、教育環境の向上に努めてまいります。

スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなど専門スタッフの配置等については、国・県等に対して引き続き要望してまいります。

本市が抱える課題を好機と捉え、より質の高い教育現場に変化できるように検討してまいります。

今現在でも産休でどこかの先生が休職し職員のやりくりが厳しくなったという話はよく聞きます。私の子供が通う寒河江市内の小学校では教頭先生や校長先生でも授業を教えています。

先生は貴重な人材です。減りゆく人的資源を幾つもの学校に分散して何のメリットもありません。むしろ積極的に統合を促し人材豊富な場所にすべきですし、そうすることで先生の負担を減らすことにもつながると思います。

現在はどの学校もギリギリの人数で回っていて、一人の先生がすべてをやらなければならない状況と聞いています。

誰かが誰かの仕事をバックアップし、溢れかえった仕事をシェアして分け合い、どの先生も定刻で帰宅する、民間企業は既にそうなりつつあるのですから、学校の仕事もそういう風にしていかなければならないと思います。子供のイジメ問題なども、まずは教員たちに目配りをする余力(時間的にも、精神的にも)があることが大事だと思います。

私たち世帯が寒河江市に転入した際のことですが、イジメ問題を危惧してわざわざ少人数の幼稚園を選んで通わせましたが結局イジメが起きました。その園は子の人数も少ないですが、スタッフの人数も少ない園でした。一部の活発な子にばかり目配りをし、そのほかの子には全く目が行き届いてなかったと後で判明しました。

我が子が小学6年に至る現在まで、毎年のようにイジメ問題を経験してきましたが、教員の数が少ないことを考えると大きな改善があることもないだろうと思います。

ですが学校が統合すれば、少なくとも教員の陣容に関しては大きく改善するはずだと思います。

そして現在未配置の、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフも、大規模校になることで配置が可能になるのではないかと思います。

これらの専門職は教育環境や福祉を考えれば今後ますます必要不可欠のものだと思いますから、ぜひとも人員配置を実現していただきたいです。

統合によって実現可能になる未来の教育の在り様に思いを馳せることが大切だと思います。

統合を好機と捉え、より質の高い教育現場に変化してほしいと思います。

賛成の声に応えるより良い施策の実現を期待いたします。

25	<p>過去のパブリックコメントを見返し自分が思っていることは、ほぼ書かれていたので同じようなことは書きませんが、もし統廃合をするなら不平不満が出ないように徹底的にいいものを作り上げて下さい。不平不満とは例えば、教室が狭い、グラウンドが狭い、体育館が狭い等または生徒数の増加により目が届きにくくなった等です。(これだけではないですが)</p> <p>教職員の配置基準については国や県の制度や基準があるのかも知れませんが、国や県の基準ではなく寒河江市独自の基準を設け手厚くなるように工夫をしてみてもどうか？(教員補助等を多めに配置するとか)</p> <p>また、寒河江市の特色を活かしつつグローバルな取り組みなども入れられるといいと思います。</p> <p>「寒河江市はすごい取り組みをしている」と各方面から視察に来るような先駆的なものができることを期待しています。</p>	<p>前回のパブリックコメントを見返しいただきありがとうございます。多くの方のご意見が反映されたより良い計画となるように見直しを進めてきたところです。</p> <p>具体例としてお示しいただいた不平不満が解消されるように、新しい学校づくりにつきましては、準備委員会などを設立して準備を進めてまいります。今回頂戴しましたご意見などを踏まえて、検討させていただきます。</p> <p>教職員の配置基準については、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律や、教育やまがた「さんさん」プランなどの制度によって設定されておりますので、教育支援員等の配置など本市で対応できることについては検討してまいります。</p> <p>寒河江市はすごい取り組みをしていると各方面から視察に来ていただけるような先駆的なものになるように検討してまいります。</p>
26	<p>1. 本件に関して、数年にわたって、市民に不安と疑問をまきちらしていることは、本件に取り組む姿勢に、「透明性」と「説明責任」が著しく欠如しているからだと思います。</p> <p>具体的には、</p> <p>①問題の提起時点から、「検討課題」「その対応方針」「検討の進め方(行程表、ロードマップ)」を説明していません。</p> <p>②検討案を説明する内容が、「建築計画」が大部分を占め、学校が有する基本的な意義を軽視し、市民の不安・不満にできていません。</p> <p>③これまでの各種意見(地元説明会及びパブリックコメント)への回答は、そのほんの一部にとどまっています。</p> <p>④外部有識者の構成(5人のうち2名が建築分野で、委員長は幼児・保育が専門)、7月の講演会講師も建築分野で、課題となる「中等教育の本質的な検討」がなされていません。</p> <p>⑤今回の地元説明資料は、「中学校を1校に統合する理由」だけを示し、2校案との比較検討の説明がなく、公平な検討がなされていません。</p> <p>⑥説明会でも「中学校1校の予定地は決まっている」と噂があるとの意見は、これまでも耳にしたことがあります。このことは、無視できない事実です。</p> <p>2. 今回の改定案の地元説明会に5回全てに参加しましたが、1回目に32名、2回目以降は15名前後で、いつも参加した人を除け</p>	<p>1. 透明性につきましては、公開できる資料につきましては、市ホームページを通じて公開しております。説明会においても説明しております。</p> <p>①すべて計画本文中に記載されております。</p> <p>②本計画は、寒河江市学校施設整備計画の説明ですので、建築計画となっておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>「公立の小中学校は、児童生徒等の学習・生活の場であり、公教育を支える基本的施設となっております。また、地域のコミュニティの拠点として生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場として利用される身近な公共施設であるとともに、災害発生時には地域の避難所としての役割を果たす多機能かつ重要な施設となっております」と冒頭で説明し、ここからスタートしておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>③前回のパブリックコメントや説明会においても回答できる範囲において回答しております。頂戴したご質問・ご意見の中には計画改定後に検討する内容等によるものも多く含まれおり、回答時点でお答えできなかったことにつきましてはご理解いただければと思います。</p> <p>④新しい学校づくりにおいて建築の視点からのアプローチは大切であると考えます。7月の講演会の講師をお願いした東洋大学の</p>

<p>ば、2回目以降は数人の参加にすぎません。これまで、昨年の地元説明会後にも事務局は「周知不足」を認めていました。その後、改善策をどのように講じたのですか？</p> <p>また、そもそもこのような状況になっている原因は、①この計画がどこでどのように決められているのかわからないという疑問と不審感があること、②これまでの説明会での意見への回答が無かったり、パブリックコメントでも回答になっていないものがあまりにも多くて、その積み重ねから信頼を失っていると言えます。</p> <p>このような状況のまま、説明スケジュールに沿って進めることは不適切です。</p> <p>3. 説明会で、改定案への疑問や意見は、「検討不十分」とする意見がありました。それに対して十分な回答がありませんでした。本件は、教育問題に限らず、地域のあり方にかかる重要な問題です。「2校案も検討する」としていることと合わせて、比較検討の議論を開催すべきです。</p> <p>4. 中学校の統合検討について、市民が求める予定地を示さないことが不審なこととなっています。これについては、都市計画の変更手続、農振除外手続に要する調整や時間の説明が全くありませんでした。しかしながら、当初の説明資料では、1校のメリットとして、「寒河江高校と寒河江工業高校とのつながりを深め」と記載されていましたが、改定案ではその記載がありません。</p> <p>このことについては、つぎのような憶測を呼んでいます。</p> <p>①まとまった土地の確保の目途があったこと</p> <p>②県立高校2校に近い位置にあること</p> <p>③その後、予定地の変更が必要になったこと、「場所ありき」の計画（案）だとすれば、市民を欺くこととなります。</p> <p>5. 各種意見（地元説明会及びパブリックコメント）に関する検討経緯とその検討内容を「情報公開」として求めましたが、開示資料は「会議開催」と「パブリックコメント募集」の手続き決裁のみの開示にとどまり、課題検討に関する資料の開示がありません。別途、資料の「開示基準」を示すように求めています。開示要求（10月16日）から10日以上が経過しても何ら回答がありません。市民に説明して広く理解を得ようとしているのでしょうか。</p>	<p>長澤先生は、文部科学省の新しい時代の学校施設検討部会部会長を務められた方であり、新しい学校づくりを勉強する上で、適任であったものと考えます。</p> <p>⑤2校案についても昨年の説明会より同じ説明を続けてまいりました。</p> <p>⑥候補地については計画改定後に検討する予定となっております。</p> <p>2. 周知については、説明会のお知らせを9月20日号、パブリックコメントの実施、計画改定（案）を10月5日号の市報でお知らせをいたしました。市ホームページにおいても周知し、説明会の質疑応答の内容につきましても公開しております。また、さくら連絡網を通じて小中学校の保護者向けの連絡、未就学児の保護者については、関係機関を通じてお知らせをしております。</p> <p>①学校施設整備計画は、教育委員会において決定するものであり、教育委員会において議決しております。このことは説明会を通じて同じ説明をしております。</p> <p>②前回のパブリックコメントや説明会においても回答できる範囲において回答しております。頂戴したご質問・ご意見の中には計画改定後に検討する内容等によるものも多く含まれおり、回答時点でお答えできなかったことにつきましてはご理解いただければと思います。</p> <p>見直しのスケジュールを事前にお知らせし、1年以上の時間をかけて進めてまいりましたので、適切であったと考えております。10月に開催しました説明会において計画を早く進めてほしいとのご意見もいただいております。</p> <p>3. 今回の見直しのために設置した外部有識者会議において、本市都市計画審議会の委員にもご参加いただき、まちづくりの視点も含めて検討してまいりましたので、ご理解いただければと思います。</p> <p>4. 当初の計画より統合中学校の予定地については、計画策定後に検討をして進める予定をしております。当初策定した計画に対し、様々なご意見を頂戴しましたので、用地選定を1年以上ストップしております。今回の改定により令和6年に用地選定を行う見直しをしております。</p> <p>①そのようなことはございません。</p>
--	--

		<p>②高等学校との連携は本市の教育を考える上で大切な視点だと考えております。本市としてどのような連携ができるのかを検討している段階です。</p> <p>③用地選定は、計画改定後に行うこととしております。情報の取扱いについては十分に注意してまいります。</p> <p>5. 情報公開につきましては、申請手続き等に基づき対応しております。</p>
27	<p>中学校は今後の少子化を考えれば 3 校統合すべき。一方で新中学校の位置に関しては、特別の配慮が必要である。将来バスの運転手不足を考慮すると、スクールバスに依存した通学体系は破綻する可能性がある。また、保護者の送迎で学校周辺が渋滞する恐れがある。JR左沢線の活用や既存のバス路線も利用できる場所が望ましい。</p> <p>(左沢線の各駅周辺や工業団地やその周辺の用地が得られやすいところ、新しい駅をつくることもあり得る)</p> <p>小学校は、寒河江、寒河江中部、南部、柴橋の4つを統合するにあたって、現在の小学校区にこだわらずに統合すべき。なるべくどの児童ももっとも近い小学校に通えるように、子供の利益を最優先にした学区の再編を考えるべきである。先行して統合する2小学校にも近い地区の子供が入学できるような制度にして欲しい。決して、地区のまとまりがなくなる、伝統が廃れるなど、学区の再編において大人や老人のノスタルジーを優先しないことを望む。(現在の小学校区における地域のつながりについては、公民館やコミュニティーセンターの整備などで支援する)</p> <p>醍醐小は建物がまだ新しいので、不登校児のためのフリースクールのような拠点として利用してほしい。</p>	<p>用地選定につきましては、計画改定後に行うこととしておりますので、今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>通学方法については、各業界における人手不足などを考慮し、公共交通機関等の利活用も含めて検討してまいります。</p> <p>小学校につきましては、今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>学校施設の跡地利用につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
28	<p>小2と年中の2人の子どもを育てています。当初の計画ですと、小2のこどもも新しい中学校に通うことができ、本人もとても喜んでいました。</p> <p>しかし、計画が延長し、小2のこどもは新しい中学校に通うことが出来なくなりました。</p> <p>同じように、新しい校舎で学びたかったと思うこども達は多いと思います。</p> <p>陵東中ではプールが故障し、新しい中学校ができるから・・・と修理は行われていないという話を聞きました。</p>	<p>今回の見直しによって中学校の開校時期が令和12年となり、楽しみにされていた方には大変申し訳なく思っております。</p> <p>今の学校で学んでいる子どもたちにとって学びやすい環境整備を並行して進めております。例えば、照明のLED化やトイレの改修などを進めております。</p> <p>本市の学校施設全体が老朽化しておりますので、優先順位等を考慮しながら、修繕を進めてまいります。</p> <p>子どもたちのことを第一に考え、計画を進められるように準備してまいります。</p>

	<p>計画が進まず、損しているのはこども達だと思います。 こども達の為にスムーズに計画が進むよう、応援しています！</p>	
29	<p>まず、現役子育て世代は、仕事も子育ても忙しく意見をまとめている時間が無い。そして、ここまで自身の事を記入するとすると、仕事関係、人間関係に差し障りがあるので、発言・意志表示をする事は、ためらいます。意見が無いのは計画案を良しとした訳ではないと思います。学校に子供を通わせている保護者に無記名のアンケートをとりましたか？</p> <p>児童が減った小学校については少しの統廃合もやむなしと思いますが、新しく校舎を作らないように、今ある校舎の中で比較的新しいものはそのまま使うべきです。地域のコミュニティの場のために新しく作る事に反対します。たとえ、どこに建てても、児童・人口の変移は想定できません。その時に改めて考えればいい。</p> <p>中学校を1校の超マンモスにするのは反対します。</p> <p>たとえ大きな建物を作っても生徒は減少して行きます。</p> <p>巨大な校舎は不用です。むしろ、2校にしておけば生徒が減った時にどちらかを使えば良い。ハコ物に金をかけないで子供たちに使って下さい。</p>	<p>パブリックコメントはパブリックコメント実施要領に基づき実施しておりますので、必要事項等のご記入をお願いしております点についてはご理解いただければと思います。</p> <p>アンケートにつきましては、寒河江市立学校のあり方に関するアンケート調査を令和元年11月に実施しております。対象は、市内保育所等に通所する年少児から市内中学校に在籍する中学3年までの生徒を持つ保護者を対象として実施しております。</p> <p>児童数の減少についてご理解いただきありがとうございます。市内の小中学校の校舎等については、老朽化が進んでおります。現時点で比較的新しい校舎においても、統合時期には30年以上経過していることとなりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>児童生徒数の推移は計画本文中8ページに記載しております。令和17年には約800名になる見込みです。</p> <p>また、学校は災害時の拠点となります。非常時に備えるための大切な施設でもあると考えますので、ご理解いただければと思います。</p>